

令和二年十月一日発行（毎月一回）日
書 象 第六十八巻 第十号 通巻七十九号

書 象

日本書道芸術協会
SHO JAPAN
設立1951年
代表理事 藤田 正



日本書道芸術協会

2020-10

信山書法の用筆法・腕法などを想う

副理事長 二瓶 嶽 風

信山書法の用筆法・腕法については、上條信山著『信山書法基本帖』にその全てが示されています。

「私の執筆法」や「張猛龍碑の臨書について」の中で、次のように述べている。

①藏鋒に徹底して、「鋒の先をなるべく画の中心にたたみこむように工夫し、筆の腰を線の中心に置くようにする」こと。藏鋒は逆筆を中心とし、「鋒の中心が線の中心にあるように工夫」すること。「沈着重厚な線質が生まれる」こと。

②懸腕撥鐙法で「筆を立てて持ち、親指と人差し指、中指の三つの指先でつまむように持ち、薬指と小指は軽くそえる」こと。

これについて宮島詠士や張裕釗と比較してみると、微妙に違いがみられ、むしろ運筆の速度はゆっくりで雄大さを感じるのである。いわゆる「静中動」の中にこそ、秘めたる激しさを見るようである。詠士の腕法は、なにかと静逸さを感じるのは私だけでしょうか。

③逆筆については、横画を引く場合「右方から空間移動で筆を運んで行き、起筆しようとする地点に近づくにつれてスピードを加え、いよいよ筆の先が紙面にふれる頃には筆軸を進行方向と逆の方向に少し倒して着筆し、そのまま逆押しにしてピタリッと止め、筆圧を加えたまま右方に逆に送筆する。」と詳細に記されており、これによって「豪快莊重」な線情を見せることになる。

ただ信山の逆筆のイメージは、あくまでスピードと強さを感じさせるが、「飛び散る飛沫」や「叩きつけるような激しさ」は、信山書法の一面ではあるが、本質の全てではないと思う。川を下るように、運筆の一連の動きである遅速緩急の変化は、私たちが受け止めるスピード感であって決して、いたずらに速く書くということではないと考えます。

さらに重厚な線質を表出するために、送筆の間において指先で筆を左右に回転して筆にひねりを入れている。これが、「起筆の瞬間の筆の回転」を指す捻筆である。いうまでもなく高度な技術であるが、筆管を捻ること、複雑で動きのある線情を表出することになるのである。

以上、信山書法が張裕釗から宮島詠士へと繋がる系譜の中から生まれ出てきたことは事実であります。私たちはさらに信山書法について深め、これを発展深化していくことが必要であると考えます。



撥鐙法による執筆



宇子遠號木堂

10月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

行書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

集王聖教序

上條信山先生書



（般若）波羅蜜多に（依るが）故に、心に…

10月20日必着
出品券を貼付

・腕を大きく動かしのびやかに書き、余白美を意識する。

波…空間を広くとり、ゆったりと仕上げる。



羅…「田」を横巾広くし、軽快に書く。



蜜…「虫」を中心より右に置く。



多…左方向の線を強めに書き、最後の左払いの線をやや太くする。





・点画の方向や空間に注意して、伸びのびと書きたい。

薩：筆順に気をつける。

横画A、B、C、Dの方向や長さを意識する。Eはほぼ水平にして文字を安定させている。

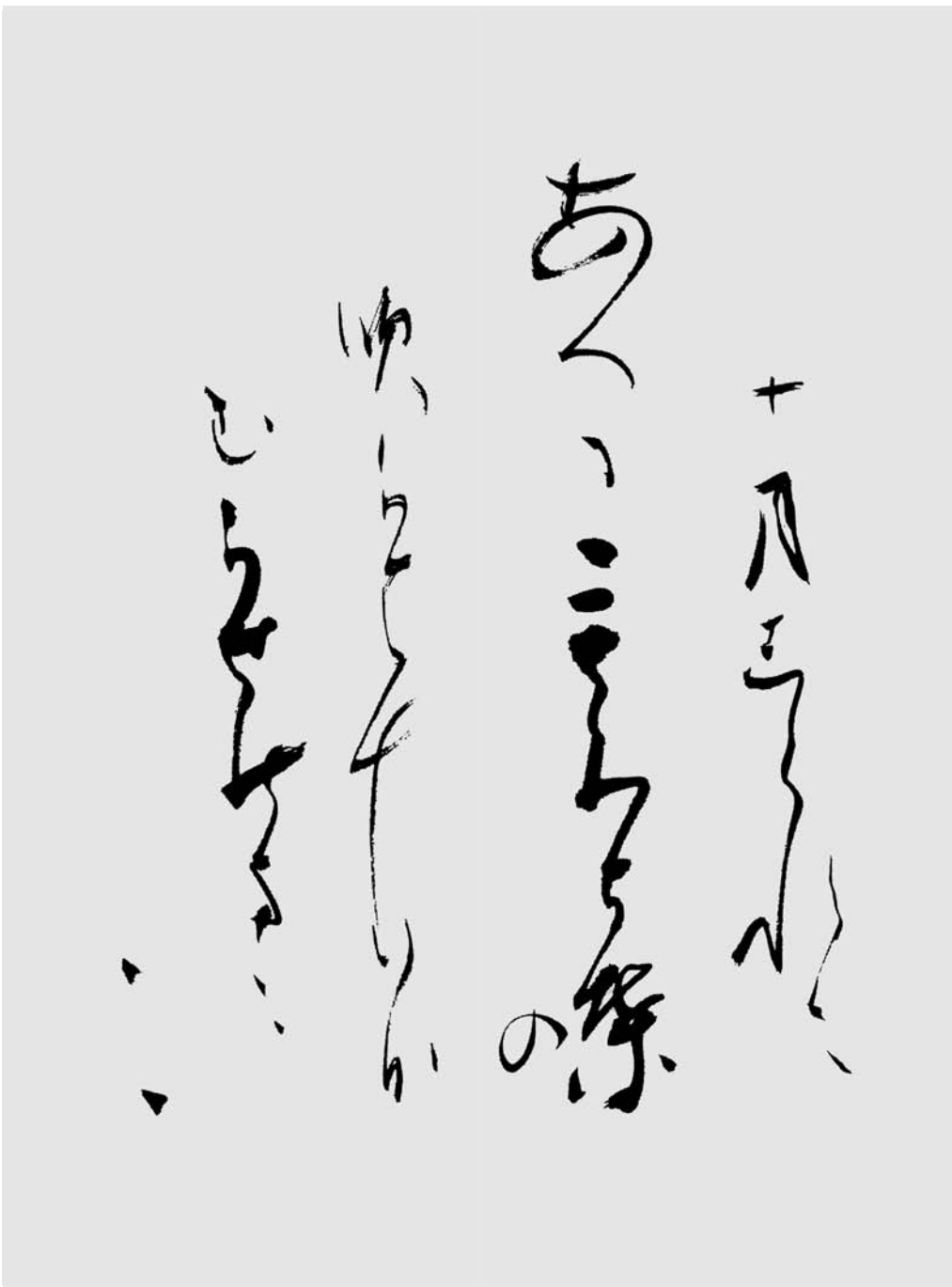


埴：二画目は細くすることを意識せず、行意を大切にしたい。「垂」はゆったりした空間を心がける。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條 信山 先生 書



十月し(志)ぐ(久)れに(二)あへるも(毛)みぢ葉の
 吹か(可)ば(者)ち(千)りな(那)むか(可)ぜの(能)ま(万)に(二)ま(二)に(二) (万葉集)

10月20日必着
 出品券を貼付

・全体構成は左図参照。



・二行目と四行目の墨継ぎをはっきりと。
 ・文字の大小を意識する。

「も(毛)みぢ」



「葉」



「吹か(可)ば(者)」

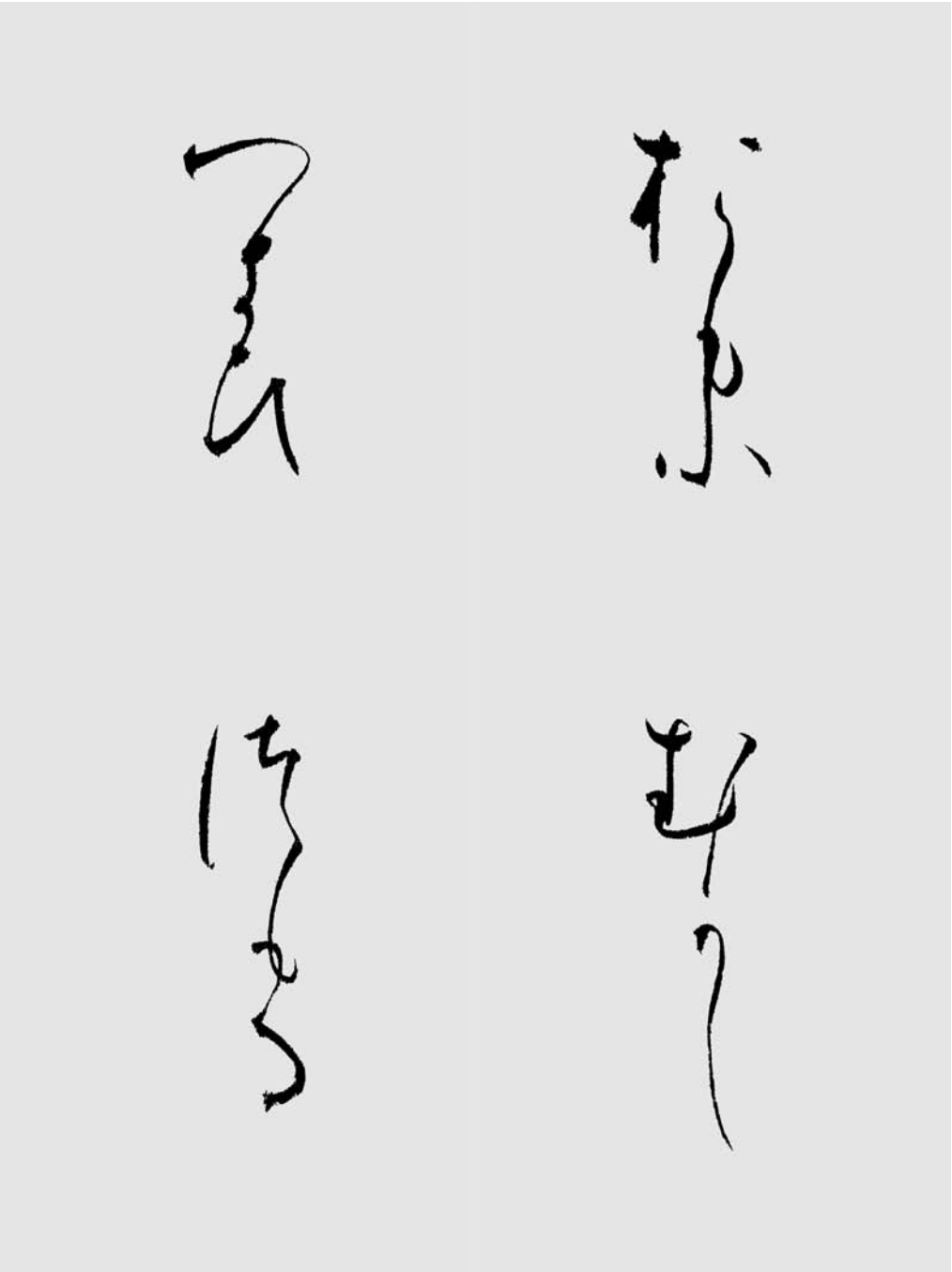


「の(能)ま(万)」



仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



お（於）もふ むか（可）し つき（支）ひ つ（徒）もる

- ・三字連綿は、それぞれの単体をしっかりと把握して練習する。
- ・文字の大小、中心の移動に注意して書きたい。

「お（於）もふ」



「むか（可）し」

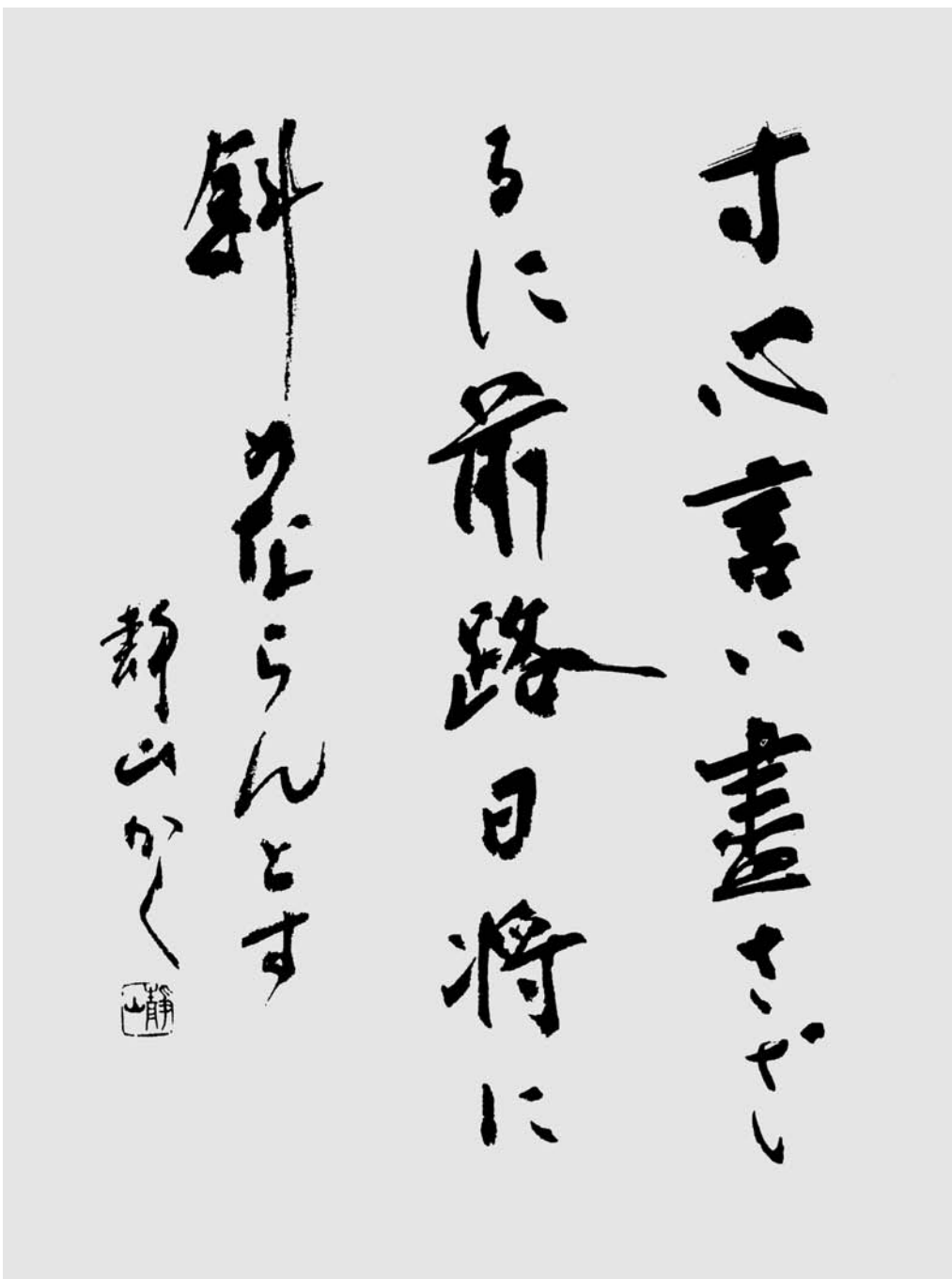


「つき（支）ひ」



「つ（徒）もる」





寸心 言い盡さざるに
 前路 日將に斜めならんとす

(唐詩選卷六錢起詩)

10月20日必着

出品券を貼付

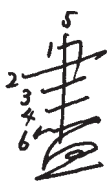
入選作のみ発表します

・今回は半紙に折目を
 つけないで書きましょ
 う。

・上下左右の空きに留
 意しましょう。

・中心部「前路日將」
 の部分はやや強めに
 しましょう。

「盡」



「前」





清聲 枕上来る（楊載）

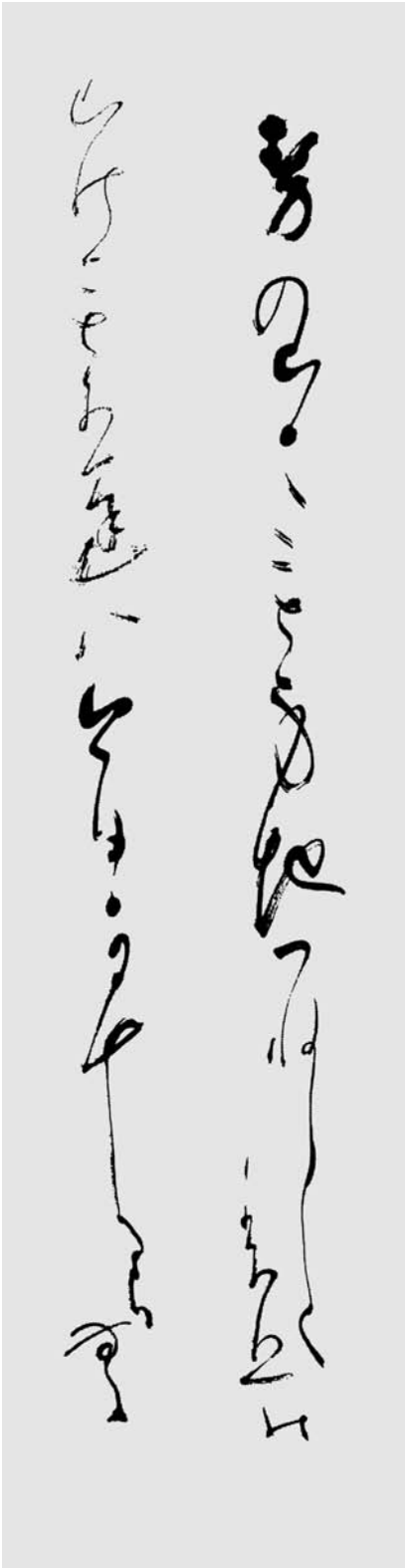
- ・「聲」は見せ場となる文字。最終画は腕を大きく動かして鋭く払う。
- ・「聲」「枕」はP14参照。

条幅随意【条随】

上條信山先生書

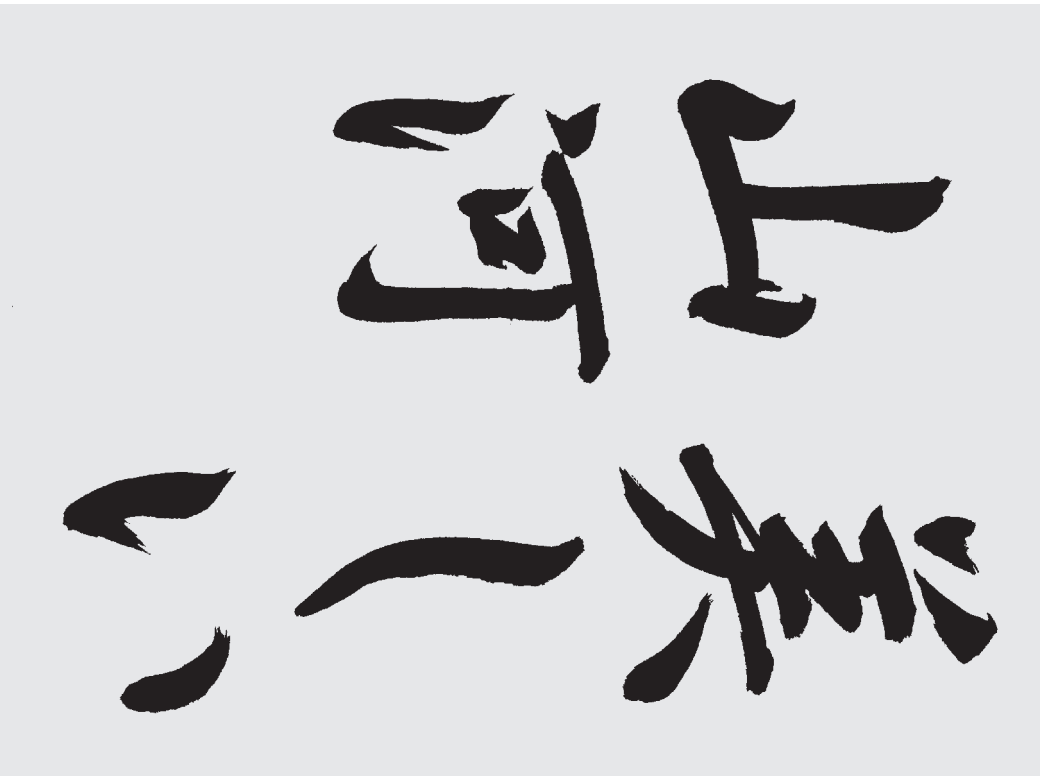
入選作のみ発表します

出品券を貼付



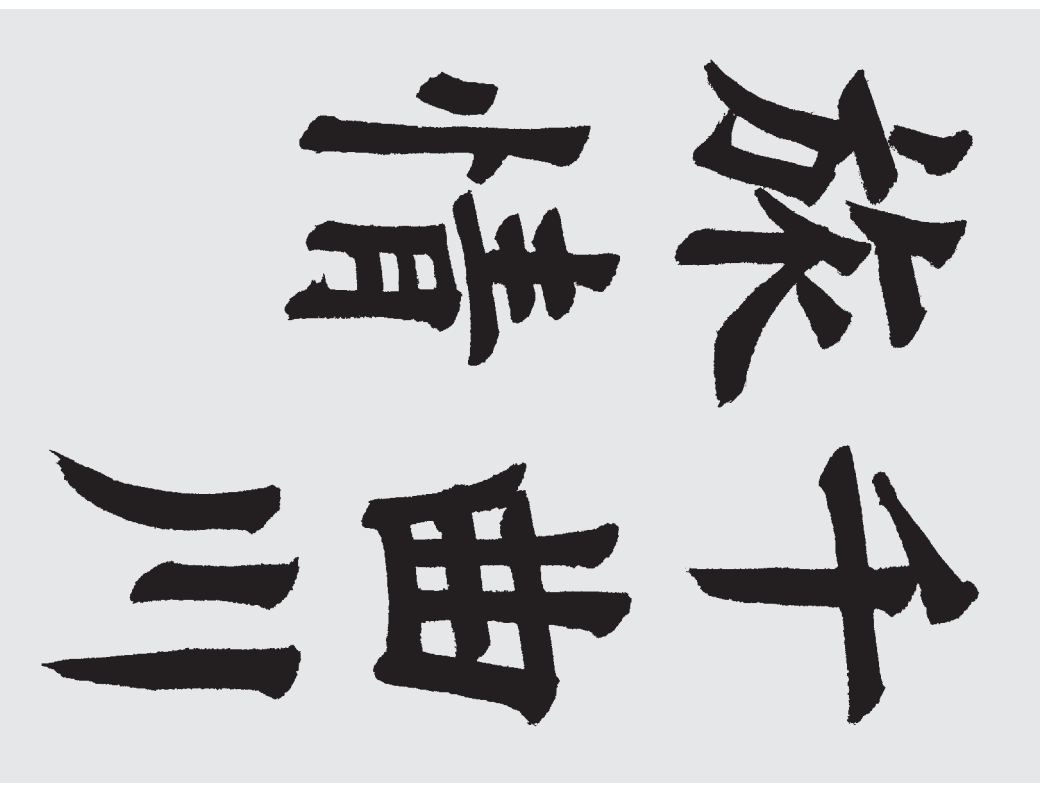
せ(勢)の山に(二)も(毛)み(身)ち(地)つねしくか(可)み丘の(能)
 山の(能)も(毛)みち(遅)は(八)今日か(可)ち(千)ららむ(無) 万葉集

- ・文字の形、大小長短を把握し、繰り返し練習する。
- ・リズム良く書き、「今日」で墨継ぎをする。
- ・「せ(勢)」「も(毛)み(身)ち(地)」「ち(遅)」はP14参照。



中学一年規定 【学毛】

露崎玄峯先生書



中学二・三年規定 【学毛】

杉山曉雲先生書



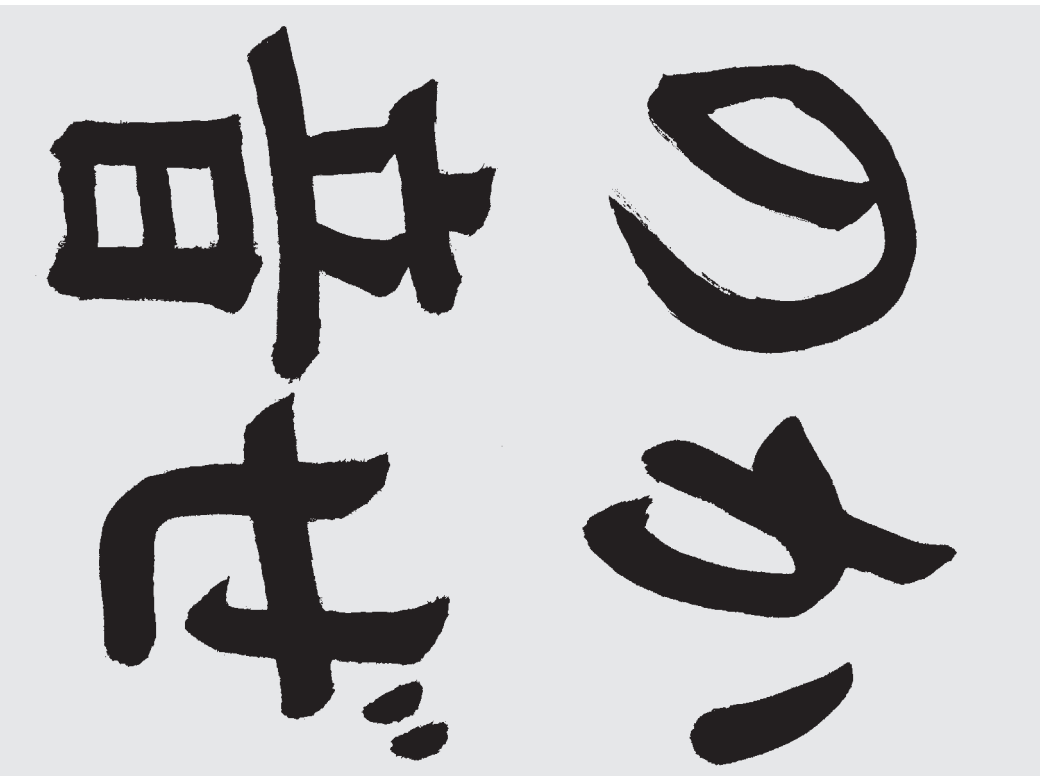
小学五年规定 【学毛】

小渊石峯先生書



小学六年规定 【学毛】

高瀬霞山先生書



小学三年規定 【学毛】

蕪木珠紅先生書



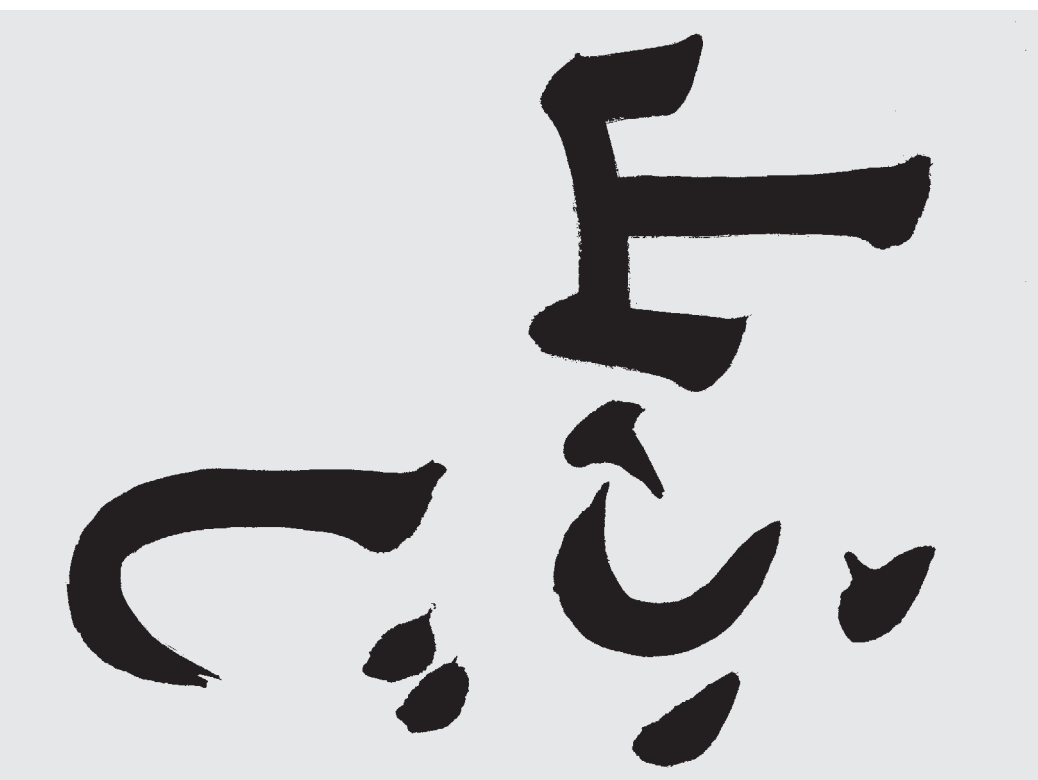
小学四年規定 【学毛】

田中珠光先生書



小学一年規定 【学毛】

寺尾碩雲先生書



小学二年規定 【学毛】

鈴木草影先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

顔魯公の書は(ハ)型の中に入ろうとすることをさげ自由な野性的な素朴さに徹している。澆漓たる若さが漲っている。

顔魯公の書は(ハ)型の中に入ろうとすることをさげ自由な野性的な素朴さに徹している。澆漓たる若さが漲っている。

一般規定【一硬】(級位)

樋口 玄山 先生書

月見れば千々にものこそ悲し
けれ我が身ひとつの秋にはあ
らねど大江千里の歌

中学規定【学硬】

中村 巍山 先生書

土佐日記は、貫之が女性を装って書いた紀行文である。仮名でのびのびと書いている。

支部 年 氏名

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小一・二年 学	中	小三・四年 学	星
小五・六年 学	身体	中学	集落

手本解説

・硬筆一般規定「魯」「徹」は左図参照。

魯 徹

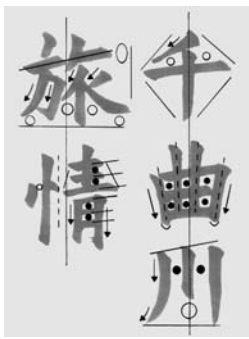
・漢字条幅規定「聲」「枕」は左図参照。

聲 枕

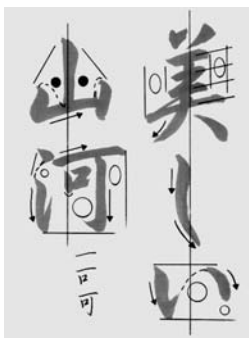
・仮名条幅随意「せ(勢)」「も(毛)み(身)ぢ(地)」「ぢ(遅)」は左図参照。

せもみぢ ぢ

学生部規定



中学二・三年



中学一年

「千」の縦画は中心線上に。「曲」は四本の縦画の方向に注意し、空間を等しく。「旅」は四画目の左払いと最終画の右払いでバランスをとる。「情」の「忄」は幅が広がらないように注意する。

行書では筆脈を意識し、運筆に緩急をつけて書くことを心掛ける。「美」は横画の長さ・方向に注意する。「し」は中心よりやや左から書き始め、ゆったりと右下へ抜く。「河」の可部は筆順に留意すること。

小学五・六年規定【学硬】

石丸 暁風 先生 書

秋のお祭りで子供みこしを
かつぐ予定が、コロナで中止
となり残念です。

名前

支部 年

級段

小学三・四年規定【学硬】

西野 江月 先生 書

晴れた空の下で元気に
運動会ができるのが楽
しみです。

名前

支部 年

級段

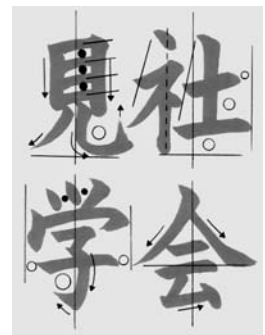
小学一・二年規定【学硬】

久保 妍山 先生 書

こ	ム	林
え	シ	の
ま	の	中
す	な	か
。	き	ら
なまえ	声	が
支部	が	ス
年	き	ズ
きゅうん		

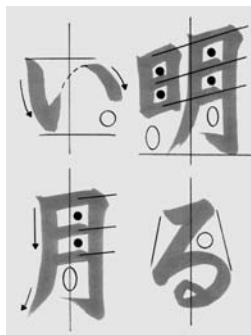
※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用の
こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを18 cmよこ・7 cm たて。小一・二課題↓2.1 cmのマス目
の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1 cm巾の罫線を引く。



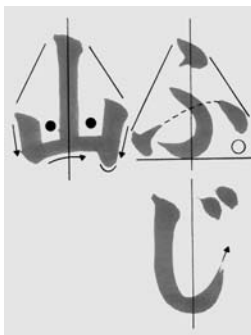
小学六年

「社」の一・三画目は垂直線上に配置。
「会」は左右の払いを伸びやかに書き、
三画目を中に入れる。「見」は目の横画
を等間隔にし曲がり丁寧な。「学」は
一の始筆と終筆、子のそりに気をつける。



小学四年

「明」は左右の横画の方向を統一する。
「る」の外形は三角形を意識し、最後は
中心線上で結ぶ。「い」の向かい合う線
はやや丸みをつける。「月」の一画目は
立て気味に書き、空間は下部を広く。



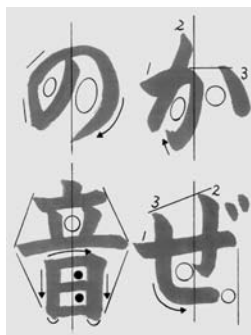
小学二年

「ふ」の外形は三角形。二画目は中心を
意識し、角度に注意して書く。「し」は
中心より左から書き始め、丸みをつけて
右上に払う。「山」は縦画の長さに気を
つけ、二画目の折れをはっきりと書く。



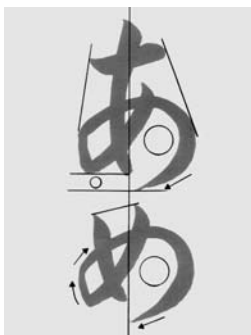
小学五年

「体」は偏と旁の組み合わせ方、「力」
は一画目の折れた後の方向に注意する。
「作」は一・三画目の払いの角度と方向
に気をつける。「り」は縦長を意識し、向
かい合う線にはややふくらみを持たせる。



小学三年

「か」の一画目はほぼ中心で曲がり、二
画目と平行に。「せ」は一画目の横画を
方向に注意して長く引く。「の」は中心
線上から書き始める。「音」は五画目を
最大幅としてバランスをとる。



小学一年

「あ」の二画目はそろるようにして、中心
に書く。三画目は横長に大回りする。
「め」の字形は横長の円形。腕全体で大
きく筆を運ぶように書く。

古典研究シリーズ ④⑧ 【古典】

始平公造像記

太和二十二年（四九八年）

今月のテーマ

写実的臨書
大字（二字）



始平



容像



石窟



玄流

書き方

- ① 文字数は二字。左の4つの中より選んで書いて下さい。
- ② 落款を入れて下さい。
- ③ 作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）

◆解説

仏教を尊んだ北魏の孝文帝は、洛陽に都を移すと、伊水のほとりの宕山に多くの石窟を造営した。これを龍門石窟という。石窟の内部には、仏像と願文を記した三千を超す造像記が残され、このうち特に優れた二十種を「龍門二十品」という。始平公造像記はその一つである。

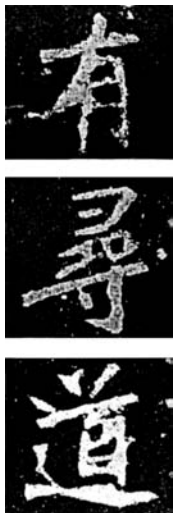
◆特徴

鋭く切り立つような起筆や収筆と、「方勢」と呼ばれる点画の角張った用筆が特徴です。また格子格（碁盤の目）に陽文（凸字）で刻されている。左の九成宮、張猛龍と比べて確認して下さい。

九成宮



張猛龍



始平公



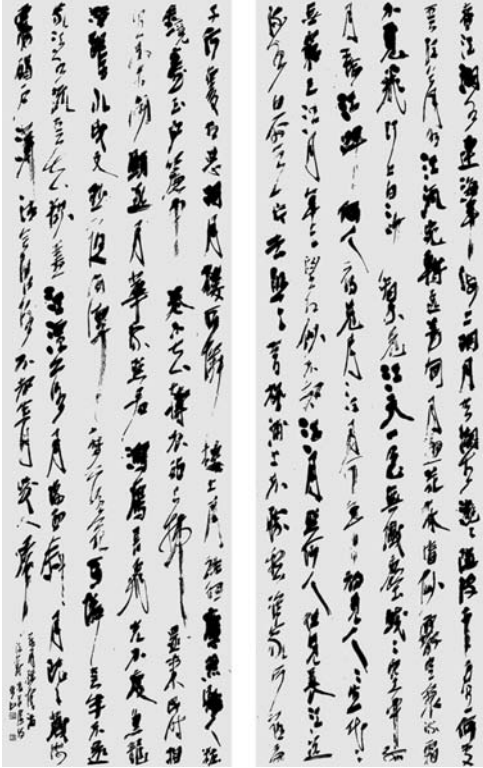
「書業六〇年記念上條信山作品集（一九八九年）」その2



①『印々泥』



③『遊月』



②張若虛詩『春江花月夜』

①『印々泥』（一九八〇年）縦九〇、五 cm 横一六五 cm
 〈雄々しく舞う〉

頭部を揃え、「印」と「泥」字の終画の長さは、艶やかにそして激しく強調され、どこまでも伸びやかである。墨量豊かに「印」の終画は「々」字に向かい、「泥」字の終画は加速し、大きな動きで右上方へ。空高く激しく飛翔する荒鷲のようである。中央下部の余白が生き生きとして、墨のほとぼるさまは圧倒的で視覚的效果を一層上げるものになっている。

②張若虛詩『春江花月夜』（一九七七年）縦二三〇 cm 横七〇 cm × 二
 〈リズム奏でるオーケストラ〉

一九八三年に発表された『寒山詩五律二首』（第四十五回謙慎展）のような自由奔放な流れとは違うが、行書を主体とした多字数の作。二字連綿を基本としながら、三字四字と一気呵成に書き流す躍動感が小気味よい。多彩な墨色の変化と思いついた伸びやかな縦画。そしてその周辺の余白、空間をまるで色彩を帯びたかのように、明るさを引き立てている。特に二幅目にその特徴が顕著に見られる。まるで天才モーツァルトのようで素敵な作品。

③『遊月』（一九八二年）縦六六 cm 横一三九 cm
 〈宇宙遊泳―三つの墨痕〉

篆書体二文字の一体化と全体構成における造形性の高さが見どころ。「遊」字は、一九七九年の『相忘』に似て、上部を切り取られたように始まり、下部をやや右にずらしてその左側面に「月」が入り込むように構成されている。二字はあたかも一字のように見える。また見逃してはいけないのが、「月」の中と下部中央にある三つの大ききな滴り落ちた墨痕。下部に張詰めた空間をもたらし、空間を一層効果的なものになっている。計算されたものなのか、偶然のものなのか興味深い。「月」字上の余白とあいまって、三画目の点の打ち込みと左下方に向かって飛び散る飛沫が強い筆圧から表出する濁筆の激しさに感動を与える。

（副理事長 二瓶嶽風）

令和二年度春季師範特待生昇格試験合格者

【楷書】

Table listing names of students in the Kaku-sho style, organized in columns and rows. Includes names like 若松 小田, 丸山 桃子, etc.

【假名】

Table listing names of students in the Kaku-sho style, organized in columns and rows. Includes names like 石郷岡夕佳, 川口水輝子, etc.

【隷書条幅】

Table listing names of students in the Rensho style, organized in columns and rows. Includes names like 西 師範, 室賀 綾子, etc.

【硬筆】

Table listing names of students in the Kougou style, organized in columns and rows. Includes names like 仲野 綾花, 森 ひかり, etc.

特待生

小・中学生準八段に達した者は「特待生試験」合格により八段特待生となる。「8級下」から始め、四十二階級を登りつめた栄誉を讃え、賞状ならびに副賞として墨と楯（左写真）を贈るものである。



認定証の申込みについて

師範昇格試験において、正師範・師範・準師範に合格し、その認定証を希望される方は、該当各書体の合格年月を記入した申し込み書に費用を添えて書象会本部庶務部までお送り下さい。

尚、お申し込みいただいてから認定証の発送までに、若干時間のかかる場合がございます。ご了承下さい。

- 正師範 五体 五〇、〇〇〇円
- 師 範 一体に付 五、〇〇〇円
- 準師範 一体に付 四、〇〇〇円



看板の頒布のお知らせ

書塾用に看板を用意しております。ご希望の方は左記の要領でお申込み下さい。

◎資格条件
書象誌において、一体でも師範に合格した方。

◎申請料
三万円（送料・税込み）

◎材質・寸法

檜無垢 A タテ六〇cm×ヨコ一五cm×厚さ二cm

B タテ四五cm×ヨコ一三cm×厚さ二cm

※A・B共に貼り函入り

◎申請方法

師範合格書体・年月と御希望の寸法A・Bのどちらかを記入して、申請料と共に書象会庶務部まで、現金封筒でお申し込み下さい。

◎お問い合わせ・申請先

〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町四―三―一六

書象会 庶務部

公・FAX 〇四三―一五三―九七四三



昇段級試験特集

令和二年度春季昇段級試験の合格作品の秀作と審査評を掲載いたします。

合格率は、師範72%（受験者二一四名）、準師範74%（同二八〇名）、特待生58%（同二〇四名）でした。
漢字作品では名前の出来栄を左右することが多々あります。文字の大きさや位置を意識して繰り返し練習することが望まれます。仮名の作品では用具用材の研究がポイントです。特に墨色は仮名の表現において重要な要素です。墨を磨り、ちょうど良い墨色を研究してみましよう。今回、二度書きの作品が複数点確認されました。二度書きをしたために審査対象外となれば、これまでの努力が報われません。くれぐれもご注意ください。
掲載作品を参考に、今後の学習に役立ててください。
（編集部）

師範 新城 神林 桃子



含墨豊かで、みずみずしい線が心地よい。また文字の位置、大きさ、形、全体構成など全てにおいて完成度の高い優れた出来ばえとなった。

師範 大阪 若井 伸珠



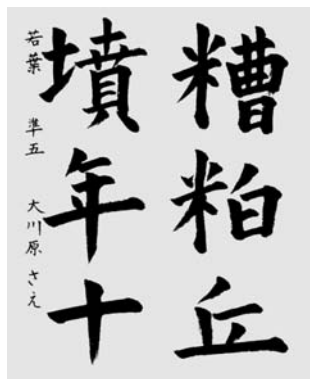
スピード感のある鋭い線質で、文字構造もしっかりとおり、整齊の美を感じる。余白も美しく、格調の高い作品に仕上がった。

準師範 この葉 多賀谷 葉子



切れ味の鋭い直線的な線で全体を引き締め、古典の特徴をよく捉えている。文字の大きさ、形、位置も見事で、緊張感が漂っている。

準師範 若葉 大川原 さえ



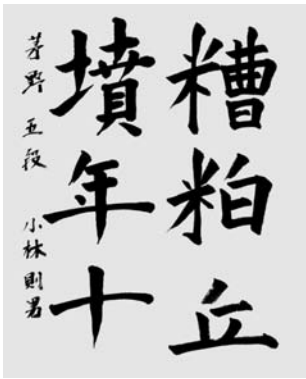
基本に忠実で、一点一画が丁寧に運筆されている。文字構造も広く、形も整っており、練度の高さがうかがえる。今後が増々期待できる。

師範 玄黙 上原 章敬



楷書作品において重要な等間隔、等分割の基本原理がおさえられており、懐の広い安定感のある作品に仕上がっている。墨量も豊かである。

準師範 茅野 小林 則男



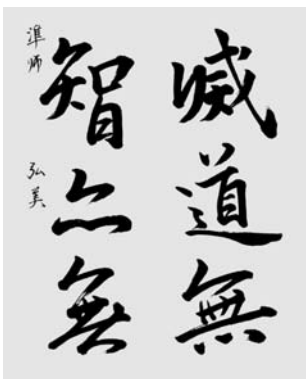
正確な筆遣いで書かれたのびやかな線が最大の魅力である。偏と旁の組み立て方のバランスもよく、懐の広い形の整った文字構成となっている。

師範 玄嶽 望月 清秋



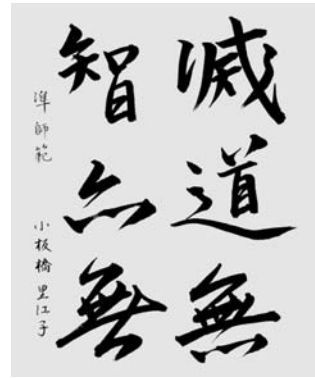
伸びやかな線質で、位置・大きさ・形よくまとめた秀作。六文字が自然に流れて余白も生きて明るい作品になった。

師範 芙蓉 川名 弘美



一点一画の隅々にまで神経が行きとどいて、形の取り方もよく全体のバランスにも配慮があり、今後が期待できる。

師範 有象 小板橋里江子



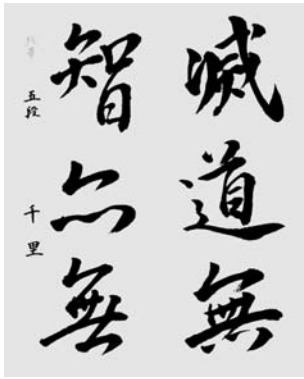
思い切りよく腕を動かして書くことができた。大ききと生き生きとした線が魅力的だ。さらに造形に気を配ると一段上の力がつく。

準師範 秀雪 鳥井 優希



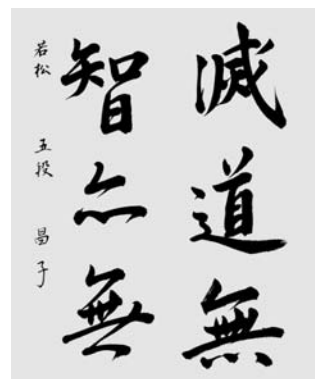
筆もよく動いて、大らかな雄大な書きぶりが印象的な作品だ。文字構造も広く、普段の真面目な学書がうかがえる。

準師範 綾華 小淵 千里



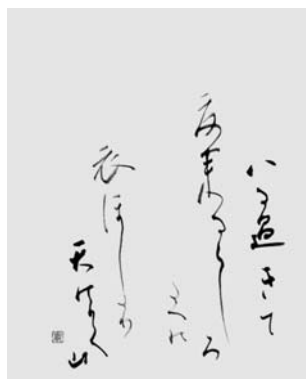
墨量豊かにして線が紙面に食い込んで、弾力のある作品になっている。強さと伸びやかさに溢れた秀作である。

準師範 若松 加藤 昌子



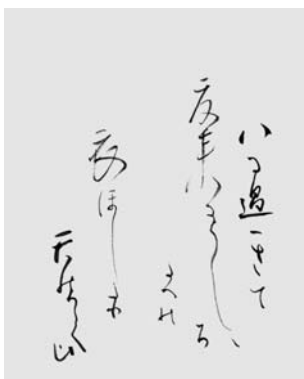
やや小ぶりだが、躍動感があり伸び伸びとした線に練度を感じる。形の良さあり、余白も十分生かした作品である。

師範 高風 山田 真菜



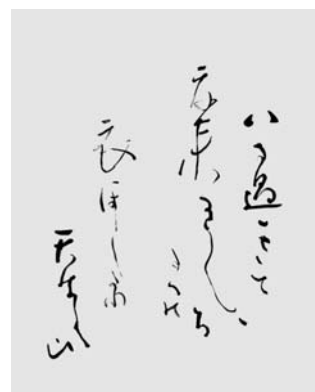
筆遣いが巧みで迷いのない滑らかな動きが心地よく感じられる全体のバランスもとても上手く仕上げていて強さも備えている。

師範 八南 落合 江水



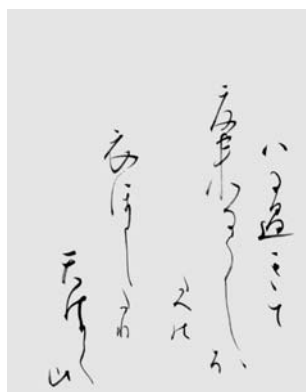
練度の高さによって形を十分に把握している。作品に自由さと明るさが活きている。渋い線質も魅力である。

師範 宵月 長山 俊子



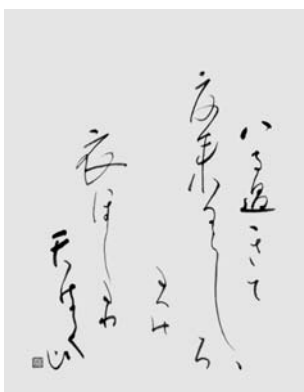
作品としての味わいに独特な雰囲気があり、リズムの楽しさがある。「衣干したり」の擦れは見事で、練習の成果がよく表れた。

準師範 玄燿 桜井 法子



緩急が自在で絶妙な間合いが美しい。余裕のある動きと張りのある線質が紙面に充実感を与えている。力みのない優れた作品。

準師範 八潮 仁平 賀子



線の太さが均一に仕上げられていたため、全体に品格を醸し出している。腕が大きく動いているが紙面にピタリとはまっている。

基本帖による学習

九月号では、上條信山先生編著の「現代臨書大系」から古典研究シリーズの参考として、表現的臨書作品を掲載しました。上條先生の編著本は、他にも「書法基本帖全五巻」(木耳社)や「現代書道全集全五巻」(尚学図書)などもあります。現在は絶版になり、手に入れるのが難しくなっています。内容が、「書法基本帖全五巻」に近いもので使いやすい装丁の『基本帖』七冊が、(旬)書象より刊行されています。



「楷法基本帖」他 6冊

楷法基本帖

楷書の基本点画から学べて、「一、二、上、下……天、元、不、永」などの基本点画の入った字を学んだ後に、「九成宮醴泉銘」の学習ができるようになっていきます。初心者や書象誌の臨書規定に入る前の基本学習ができる内容となっています。また支部長先生がお弟子さんを教える際の指導書としても最適です。(一冊 410円)

行書十六法

行書の基本の点画を「一、二、一、上、下、月、天」の順に練習していきます。王羲之の集字聖教序(集王聖教序)を一ページ掲載し、その中から選んだ四文字を書いた臨書手本も掲載されています。行書デビューする際のテキストとして、行書の指導書としても手軽に使用できるものです。(一冊 410円)

かな基本帖上

『かな』は、「手首を45度に立てて、三本の指でつまむように小筆を持ち、指先を動かさず、すべて腕全体での動きで書く。」というように、基本線の書き方から丁寧に解説が書かれています。『かな』に必要な基本線「一、〇〇〇、llll、W、し、)、(、)、(、)から始まり「かなの単体」

初めて楷書に取り組もうとする方、基本から仮名の勉強をしたい方、信山バリエーション的に学習したい方、お弟子さんの指導書をお探しの先生など、目的に応じて使用できるものです。ご自身の勉強のため、またお弟子さんの指導のために使用している先生方もおられます。今号より、二回に亘って七冊の内容の紹介と各基本帖の図版の抜粋を掲載していきます。(編集部)

「変体がない」の学習をしていきます。そして、二文字連綿から三文字・四文字連綿へと段階的に学習していきます。毎月の競書や昇段級試験の審査で文字の間違いを見ることが少なくありません。かな学習をする際の字引としても、初心者はもちろん、中級者以上の方にも必携のテキストといえるかもしれません。(一冊 460円)

かな基本帖下

「かな基本帖」上は、丁寧に解説がありますが、この「かな基本帖」下には解説文はありません。少し流れのある「かなの単体」と「変体がない」から学んでいきます。次に、二文字連綿から三文字・四文字連綿の学習。そして半紙に短歌の四行書き四種に進む構成になっています。漢字の行草が六ページ、半紙書きの短歌が二首、さらに半紙で短歌の散らし書きが二首あります。中級者以上の方にお奨めです。(一冊 460円)

隸書基本帖

隸書の基本線から学ぶことができます。「縦画、横画、左払い、右払い、点」などを骨線で図示した手本で練習していきます。基本線の練習の後は、半紙に二文字ずつ約二十文字の隸書手本で学習していきます。初心者から中級者の方向けのテキストです。(一冊 410円)

調和体帖

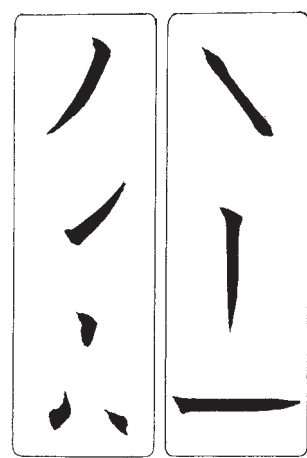
このテキストは、「ひらがな交じりの調和体」の勉強に適しています。初めに、信山流の漢字とかなで書かれた四行の短歌八首の手本があります。次に俳句二首、さらに散らし書きの短歌が六首あります。最後に、平家物語の最終巻「灌頂巻」の小原御幸（おはらごこう）が五行で一五ページにわたり書かれています。変体ながら使用されていますが、それを「かな」に置き換えると調和体作品の教材になります。卷子や帖作品の参考にもなりませんし、小筆で手紙文を書く際の参考にもなるでしょう。（一冊 460円）

信山書法基本帖

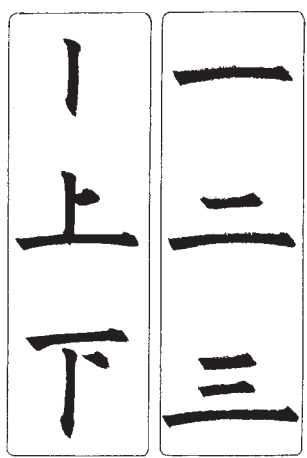
この本には、「私の執筆法」「逆筆法」が詳しく書かれています。これまで、信山流講習会の際に紹介し、書象誌の巻頭言などでも何度か引用されてきました。信山流のバイブルと言ってもいいものです。学習する古典は、信山流の元となる「九成宮醴泉銘」と「張猛龍」です。「露鋒」と「蔵鋒」の違いが、上條先生の生き生きした線質で表現されています。基本点画では二、十、下、仁、江、天、日、月、永などを書きます。九成宮と張猛龍の二種の学び方も書かれていて、その臨書学習もできます。現代臨書大系から抜粋した「臨書法」を書象誌八月号の20・21ページで紹介しましたが、このテキストでも臨書法についてコンパクトに掲載しています。信山流の原点を知り、さらに本格的な信山流を身につけるために、是非とも手元に置きたい一冊です。（一冊 900円）

楷法基本帖

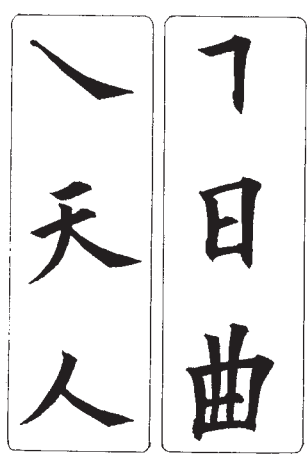
〈基本点画〉



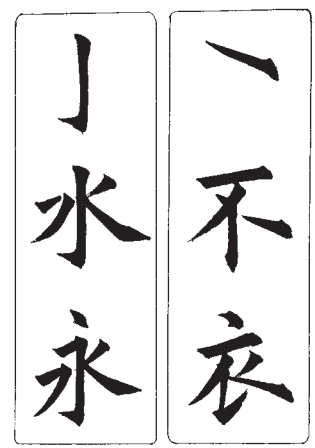
4頁



5頁



6頁



16頁



20頁



29頁

行書十六法

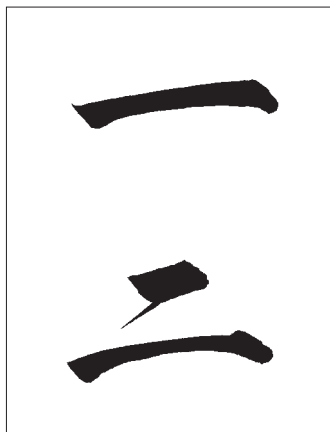
〈集字聖教序〉



〈基本点画〉



1頁



2頁



5頁



8頁



9頁



12頁



13頁

〈臨書 集字聖教序〉



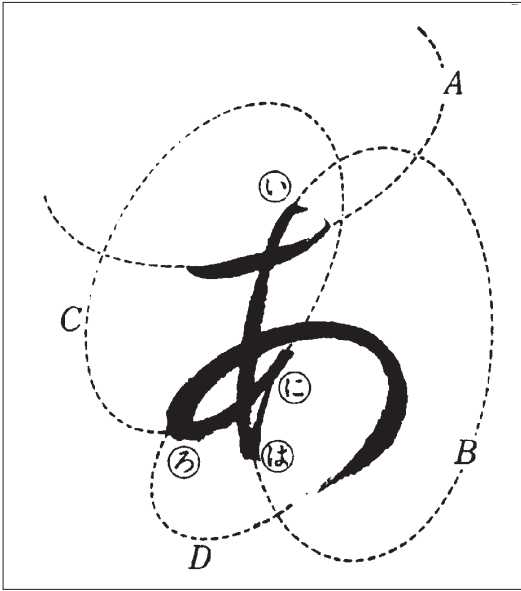
14頁

かな基本帖 上

1 「かな」の基本線

直線と曲線

書は形と線の芸術といわれている。書の線で最も基本的で、最も単純なものは直線と曲線である。ところで、「かな」の名蹟を注意してみると「かな」を構成している線は実に複雑多様であることに気づく。「かな」の手本として最も代表的であり、不変性を持っているといわれ、藤原行成が書いたと伝えられる和漢朗詠集を中心に、「かな」の線について考察し、漢字の基本点画にあたる「かな」の基本線をつくってみよう。まず、「あ」の単体を分析してみると、次のような要素が考えられる。



〈「あ」の単体の分析〉

第一図

大小曲線

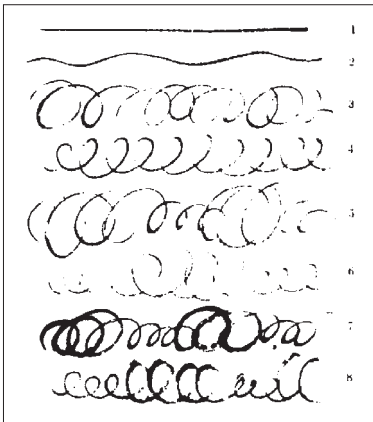
A B C D 四つの曲線をみると、いずれも大小が異なっている。大小は「あ」の形をつくるうえからの必要性にせまられてできたものである。「かな」を上手に書くには、大小の曲線が思うように書ける技術が絶対条件になってくる。また、同じ曲線でも、時計のまわる方向のものと、それとは逆の方向のものとがある。

これに、直線を加えると、第二図の1〜6までの基本線（以下省略）

抑揚

次に「あ」の字のA B C D 四つの線を見ると、曲線の中に細い太いがあることに気づく、しかもそれが、自然に連なっている。上下の力を加えているわけである。これを機械的練習につごうのよいように系統づけると、（以下省略）

1 頁



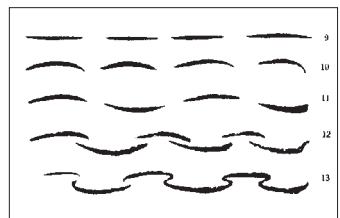
〈1〜6の基本線〉

第二図

2 頁

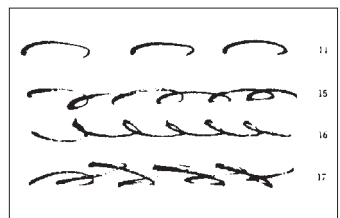
〈9〜13〉

第三図



〈14〜17〉

第四図



2 頁

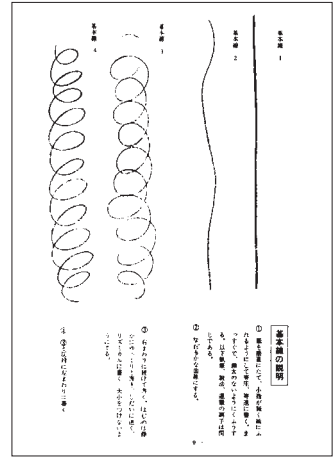
連折

さらに注意してみると、「あ」の字の第一画、第二画は紡錘形になっている。「かな」の点画は、こうした形体をもっているところがきわめて多く、しかも第一画いろいろの部分のように一つの画から次の画へ方向を変えながら、自然に連折している部分が非常に多いのである。この二つの要素を（以下省略）

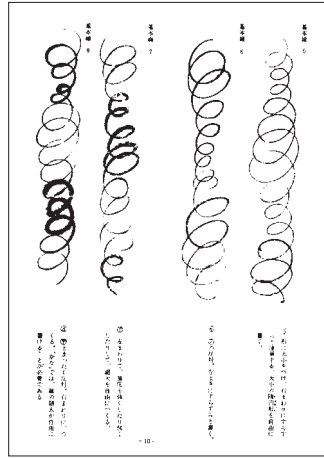
この後、「転折」さらに「2 基本線の構成」へと続く。「基本線の構成」は、第一から第八まででわかれて解説があり、「3 基本線の書き方」へと続く。さらに「筆の持ち方」「腕の構え方」が詳しく書かれている。

さらに、基本線には、それぞれ注意点がある。単体の学び方は、「1 かなの書き方」の解説に続き、「い」「ろ」「は」の単体には字源（ひらがなの元の漢字）が書かれて、一字一字のポイントがある。「2 変体仮名の書き方」の解説へと続いていく。

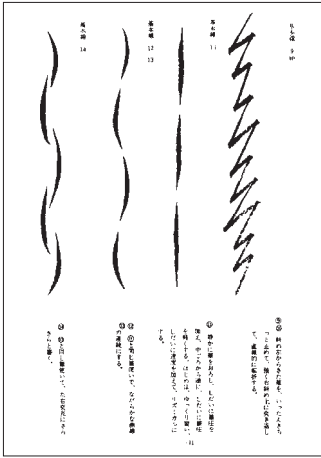
〈基本線の説明〉



9頁

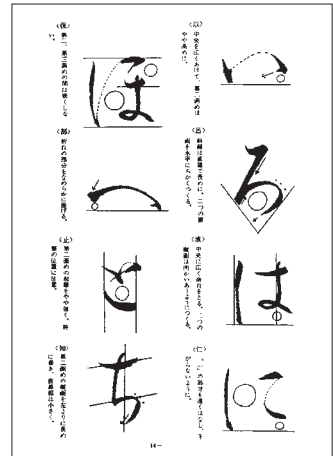


10頁

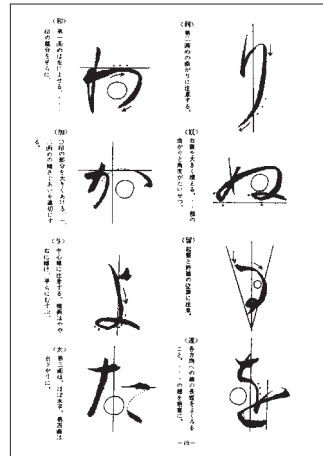


11頁

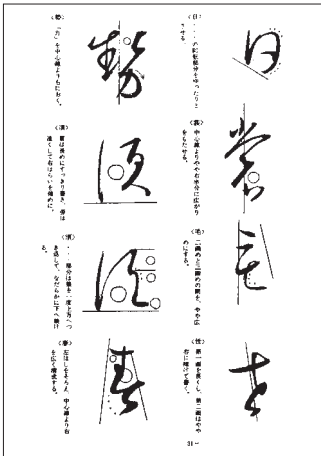
〈単体とポイント〉



14頁

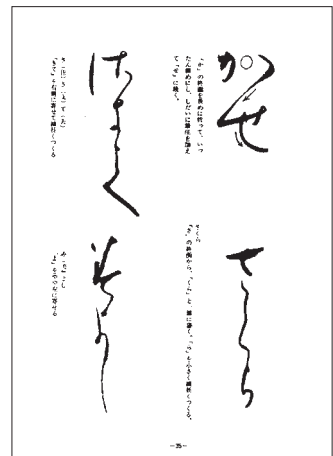


15頁

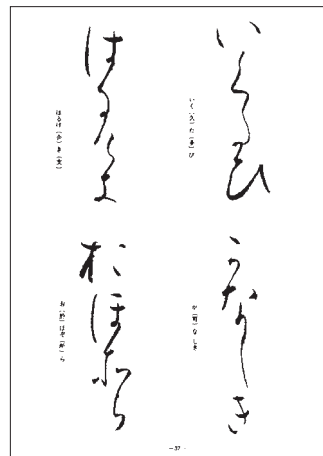


31頁

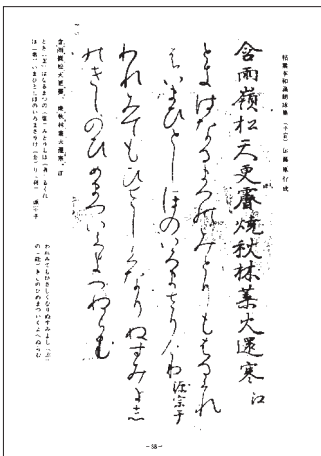
〈連綿の学び方〉



35頁



37頁



38頁

かな基本帖 下

〈かなの単体〉

いろはにほ
いとちりぬ
つをわかよ

1頁

〈変体がな〉

せすん
ゆききき
小下

4頁

東竹ち地李
ゆききき
新和まり

5頁

〈連綿〉

けならあき
あきしき
あきあき

10頁

ほきほき
あきあき
あきあき

11頁

あきあき
あきあき
あきあき

13頁

〈短歌一首〉

あきあき
あきあき
あきあき
あきあき
あきあき

14頁

〈散らし書き〉

あきあき
あきあき
あきあき
あきあき
あきあき

26頁

あきあき
あきあき
あきあき
あきあき
あきあき

27頁

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

練馬支部 小六 毎田 侑希



お手伝いをしっかりできる侑希さん。学校では代表委員を務めています。読書が大好きでお気に入りには重松清。本は心のダイヤモンド。何れ大きな宝石に。

一葉支部 小三 伊藤 大葵



幼稚園の時から習っている。泣いてしまう時もあったが長い時間を根気強く書き続けることができる。嬉しいのは自分の名前を漢字で書けるようになったこと。

松戸支部 中一 春田 蒼葉



お姉さんと同じ特待生を目標に熱心にお稽古を頑張っています。部活は卓球部を希望。益々上達することを期待しています。今後がとても楽しみです。

一絵支部 小四 薄井 愛奈



お習字が大好きな愛奈ちゃんは学校でも大きな賞を一人じめしています。キチンと正座して黙々と書くことができます。これからも頑張ってネ！

一絵支部 小四 白石 遼羽



半紙に向かう時はギアチェンジして真剣です。とてもいい字を書きますが習字より好きなのは少年野球とのこと。守備はショート、運動神経も抜群です。

平成支部 小四 蟹澤 悠花



沢山の習い事をしていますが前向きにしっかりと取り組んでいます。競書作品は一回で書き上げてしまうほどに上達しました。力強い字を書きます。

大阪支部 小四 中島 あかり



妹のめんどうを良くみるやさしいあかりちゃん。先生もねぎらってくれます。ピアノも塾もがんばっています。書道も上達してきました。前進！前進！

練馬支部 小五 古俣 花菜



手本を見て書く時の集中力が素晴らしいです。スイミングにも熱中しているので動と静のバランスが良いですね。音楽にも興味があります。可能性が無限です。

龍文支部 中二 溝口 真那佳



絵が得意な真那佳ちゃん。持ち前の集中力で仕上げる書作品も充実した出来栄です。今後、益々腕に磨きがかかることでしょう。期待大です。

芙蓉第五支部 小三 玉川 縁



元気のいい縁さん、一年生の時からお姉さんと学校帰りにお会いに来ます。書く文字も元気のある字で、これからがとても楽しみです。

八潮支部 小二 恩田 泰嘉



しっかり大きな文字を、書けるようになりました。これからますます上達してくれること楽しみにしています。ガンバレーノヤッ君！

平成支部 小五 栗原 はるみ



活発なお嬢さん。バレーボールで県大会出場、三位の成績ノキリッとした線質の字を書き、メキメキ上達しています。お母さんを追い越せるかな？



△漢字条幅▽ 評 荻田 光山

大村玻玉 縦の貫通力があり、線太

で印象的な快作。

日下部耕山 伸びやかで粘りのある線

がすばらしい。

小西琴月 無駄な動きがなく、ペテ

ランの味あり。

折笠琴羽 五字の布置がよく、安定

した秀作。

齋藤盈月 瀟洒な書きぶりが目に留

まった見事な作。

浅井菖風 一点一画をおろそかにせ

ず、気力充実。

古川琇光 気負いのないさわやかな

筆法が見事。

飯島蓉光 基本にのっとった筆運び

が好印象の作。

△条幅随意▽ 評 小室 墨汀

岸 葉草 直筆中鋒、基本に忠実で

正統派の傑作。

湯本香窓 濃墨を力強く書きこなし

た快作である。

藤澤竹虹 墨色美しく、余白に伸び

やかな線が光る。

△通信条幅▽ 評 大澤 梢光

宿谷硯心 一貫性があり快作となっ

た。

竹野翠紗 豊かな線の響きと美しい

字形表現見事。

島田壺峰 腕の動きの大きさが線に

生命感を生む。

<p>月落不離天 <small>惟月</small></p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>春秋</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>善提薩 埴般若</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>善提薩 埴般若</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>
<p>月落不離天 <small>張山</small></p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>禮器</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>善提薩 埴般若</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>善提薩 埴般若</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>
<p>月落不離天 <small>彩輝</small></p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>先聖 春秋</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>善提薩 埴般若</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>善提薩 埴般若</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>
<p>月落不離天 <small>忠香</small></p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>先聖 春秋 臣愚 以爲</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>善提薩 埴般若</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>	<p>善提薩 埴般若</p> <p>賞状 優勝 推薦 特選 秀逸 金賞 銀賞 佳作 入選</p>

基本課題

評 杉山 曉雲

柄澤懂月 伸びやかである。全ての線が余韻を持つ。
青柳緑水 三種の右ハライ波磔を力強く書き分けた。
木本彩暉 隸意を会得され横画が快適に走っている。
上條恵香 濃墨でじっくり筆を進め沈着な美しさ。

研究課題

評 鈴木 草影

布施杠華 蔵鋒が効いて落ちついて書けている。
珠 悠 腕の動きが大きく調和がとれている。
齋藤香琳 含墨豊かでゆったりとした作品である。
加藤穆舟 骨力あり歯切れの良い線質である。

古典課題

評 杉山 曉雲

岩月彩紅 潤墨で力強く素朴な表現に古意がある。
吉田谿沙 渴筆が効果的で余白も美しく品格高し。
伊藤西光 石刻の趣を捉え、切れと伸びを具えた。
春日皓静 横画の揺らぎが余裕と安定を呼び美しい。
荻原粹虹 印象的臨書から隸意を発展させて美しい。

師範部

〈行書〉

評 二瓶 嶽風

菊地恵爽 柔らかく伸びやかな線が美しい。
伊里草竹 一点の曇りもない純粹さに感動。
川島映雪 軽やかなリズムが心地よい作。
小柳貞松 気脈の貫通した余白の美しさが印象的。
関澤劍山 気負いのない瀟洒な書きぶり見事。
竹野翠紗 字間の取り方が適切で得意を感じさせた。
泉澤禾苑 手本に忠実でしかも自由に書き上げた。
近藤静志 線に膨らみと甘さを見せた格の高い作。



島村霞菫 自由自在な筆はこびが楽しい。

平野壺桜 真面目な取り組みが見える努力作。

下平成苑 鋒先きを効かせて躍動感に溢れる佳作。

中久木陽映 ゆったりとした運筆で大らかに仕上げた。

板谷静思 小振りだが屈託のない自由さがよい。

東島陵光 集中力を高めた気力充実の一点。

新井谿祥 一生懸命努力を感じさせる作だ。

石郷岡夕佳 文字の大小の変化をつけて明るい作。

△仮名▽ 評 樋口玄山

穆 舟 形の確かさ、流れの美しさ、佳。

泰 蕙 黒と白の対比の妙。余白が響く。

静 翠 筆の毛の開閉が自在。自由な表現。

小 映 中鋒の柔らかな甘い線が魅力。

峰 雪 潤渴の変化が自然で停滞がない。

柚 香 中央の余白をはさみ左右がよく調和した。

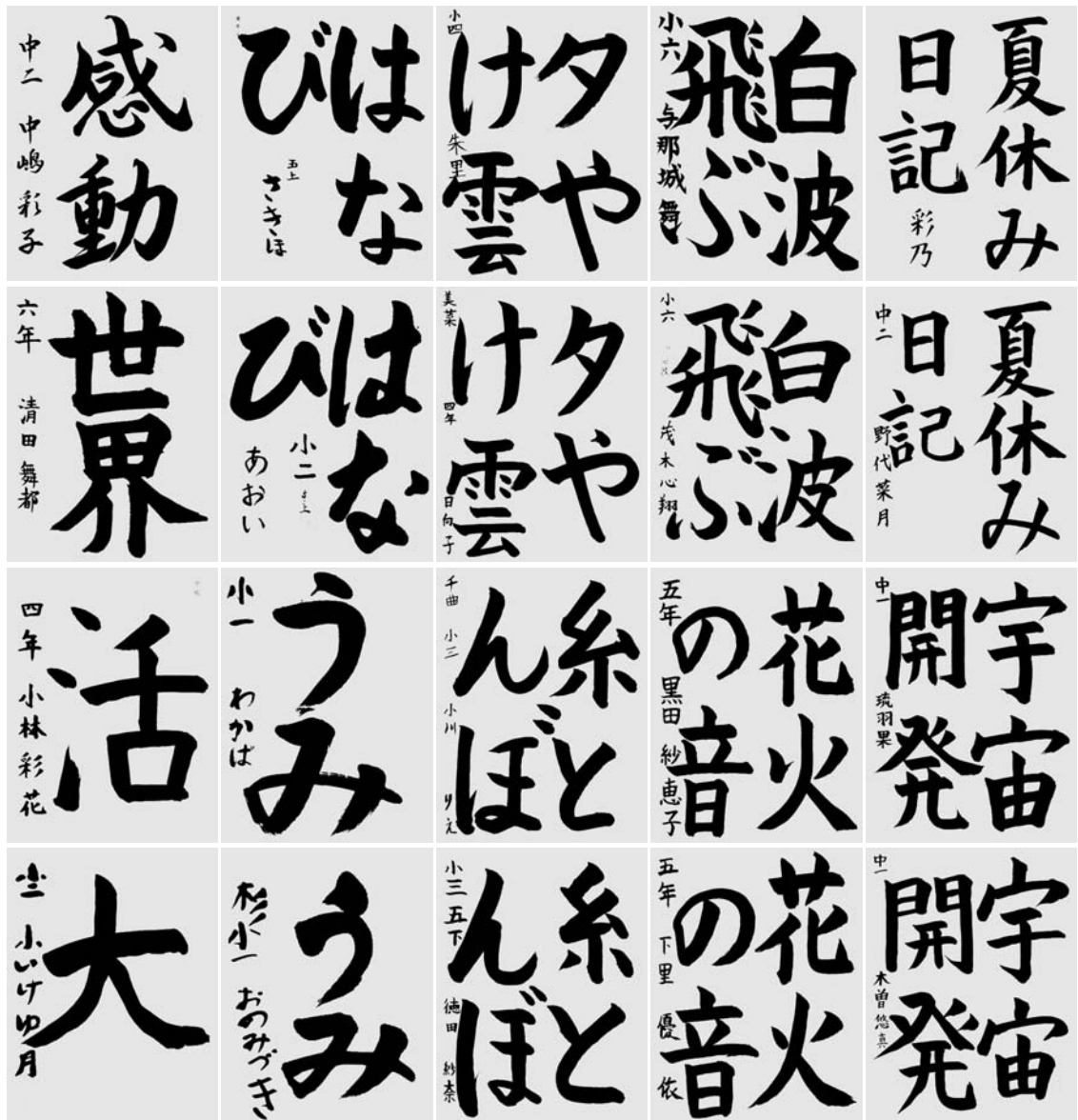
採 舟 迷いのない大胆な運筆がよい。

照 節 焦点となる「ほし」の美しさ、みごと。

小 瑠 十分な練成が完成度の高さを生む。

李 葉 太さを失わない線が強さを見せる。

洋 子 渴筆部の冴えは動きの大きさから。
翠 一字一字を大切に書く真面目さがよい。



学 生 部

評 恩田 静月

中島彩乃 穂先が効いた線で凛々しい作品です。
 野代菜月 全体の調和がとれ美しい。名前も良い。
 久久琉羽果 自然に墨がしっかり入り筆勢がある作。
 木曾悠真 じっくりと運筆が出来ています。
 与那城舞 墨がたっぷり入り形も大変良い作。
 茂木心翔 変化に富んだ線表現出来ました。
 黒田紗恵子 堂々としていて明るい作品です。
 下里優依 立体感があり、習熟度の高い作です。
 榎本朱里 大きな動きのある筆使いで書きました。
 久村日向子 正しい筆の入り方が素晴らしい作品です。
 小川りえ ていねいな線で美しい作品です。
 徳田紗奈 お手本を良く見て正しい形がすばらしい。
 柏 咲穂 むずかしい文字でしたが、とても上手。
 野田あおい すみをたっぷり入れ大きく書きました。
 廣瀬若葉 大きな海が目にかびます。じょうず！
 小野みずき 力よく書きました。このちょうし！

半紙 随意

評 江上 玄光

中嶋彩子 動きのある線で、バランスよく書けた。
 清田舞都 力強い書きぶり、集中力がすばらしい。
 小林彩花 筆づかいよし。明るくのびやかな作品。
 小池優月 長いせんを元氣よくかけました。

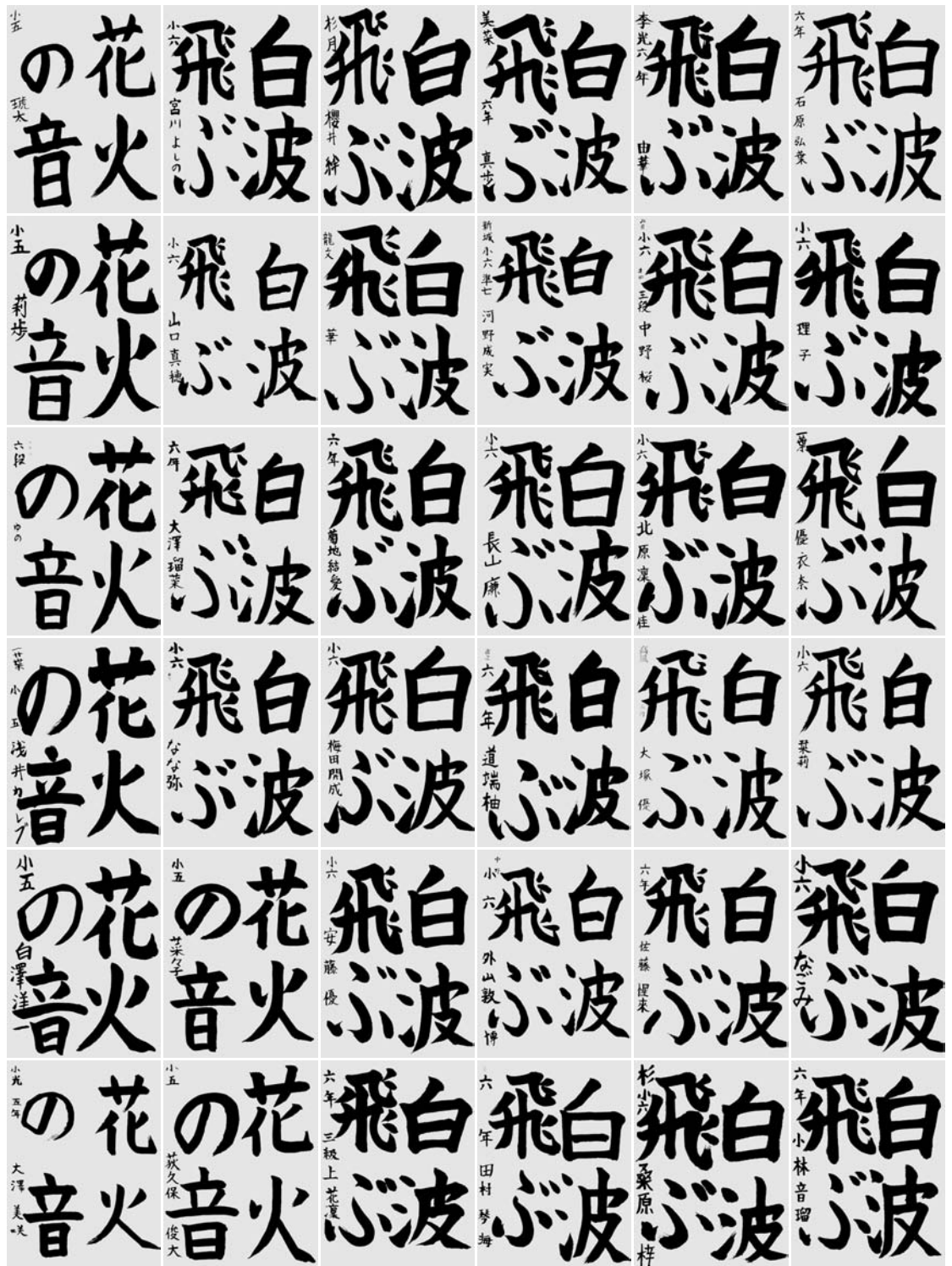
このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

觸法	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽
觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽
觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽
觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽
觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽
觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽
觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	四谷三級 大貫美陽	觸法	天のあらしの 月のあかり	名東七級 澁谷 遙	菩薩	天のあらしの 月のあかり	八谷三級 大貫美陽

麗 墨	静 原	秀 雪	竹 澤	笠 原	門 倉	（級位）	社会	東根	美那	有象	大阪	八潮	華雪	玄樸	（段位）	（仮名）	倭	高社	この	名東	四谷	四谷	若松	茅野	竹華	玄樸	華雪	船橋	成城	秀雪	華雪	高風	北府	高林	（行書）	
門倉	鈴木	鎌田	竹澤	笠原	門倉		中山	松澤	スミス	渡邊	宗林	小林	門脇	太田			平田	笠原	清田	澁谷	大貫	柳澤	尾崎	川島	真道	佐藤	加藤	松井	中村	阿部	齋本	館澤	安部	向井	小林	
倉奈	奈々	きら	芽生	きら	奈々		正一	里由	泉貴	泉貴	華陽	華陽	荷玉	真志			佳宏	美波	波瑠	美陽	千佳	裕子	実佳	陸	美優	美里	乃香	千夏	紀子	奈緒	舞	裕子	ひなた	真志		

宇上 中一 宮城 乃愛 開宇宙 発	中一 文加 開宇宙 発	中一 野澤 美音 開宇宙 発	中一 絵菜 開宇宙 発	中二 春花 日記 夏休み	伊奈 中三 舞衣 日記 夏休み
小六 西澤 凜乃 飛白 ぶ波	土筆 中一 秀史 開宇宙 発	中一 坂口 正法 開宇宙 発	中一 西沢 大塚 佳穂 開宇宙 発	中三 荊 央 日記 夏休み	中二 桃 杞 日記 夏休み
小六 柿沼 里緒 飛白 ぶ波	中一 菊池 ありさ 開宇宙 発	中一 柳田 結衣 開宇宙 発	中一 絵 木 開宇宙 発	中三 山本 花果 日記 夏休み	中二 隼 日記 夏休み
六年 準五段 田中 凜奈 飛白 ぶ波	中一 優 心 開宇宙 発	中一 矢野 実優 開宇宙 発	中一 明日 菜 開宇宙 発	中三 三枝 美空 日記 夏休み	中三 山田 愛 日記 夏休み
六年 ばるみ 飛白 ぶ波	中一 山城 一志 開宇宙 発	中一 菜月 開宇宙 発	中一 上野 かれん 開宇宙 発	中六 柳 原 花 日記 夏休み	中三 準八 山本 愛美 梨 日記 夏休み
宗介 飛白 ぶ波	杉中 一 久我 佳乃 子 開宇宙 発	中一 阿部 桜乃 開宇宙 発	中一 梨子 田 茜 開宇宙 発	中二 夏 生 日記 夏休み	文 望 日記 夏休み

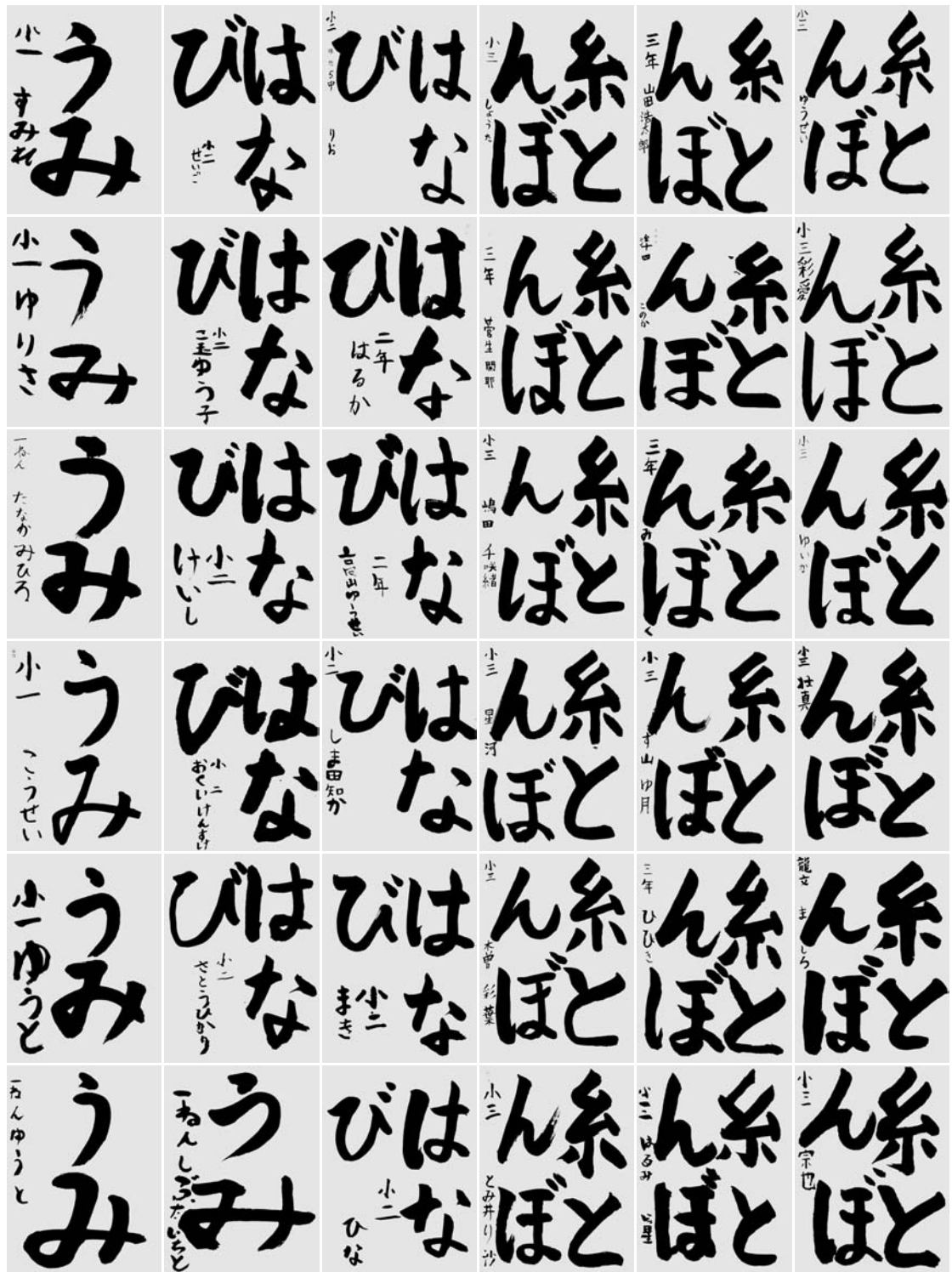
- 〔毛筆〕
- 〔中二・三〕 伊奈 上林 舞衣
松戸 西谷 桃 杞
凜心 緑川 隼
霞墨 山田 愛
名東 山本 愛美 梨
玄機 永富 文望
有穂 新田 春花
華雪 鶴沼 莉央
光丘 山本 花果
折原 柿崎 美空
石峯 柳原 花
正桂 白濱 なつき
- 〔中一〕 田中 絵菜
大塚 佳穂
安陪 姫来
大坪 明日菜
上野 かれん
高社 梨子 田 茜
飯山 梨子 田 茜
硯扇 野澤 奏音
この 坂口 正法
霞墨 柳田 結衣
神奈 矢野 実優
玄黙 新井 菜月
大象 阿部 桜乃
中野 酒井 文伽
土筆 井 雅史
名東 菊池 ありさ
静翠 島村 優心
富士 山城 一志
杉中 一 久我 佳乃 子
宇土 宮城 乃愛
- 〔小六〕 西澤 凜乃
竹華 柿沼 里緒
皓花 田中 凜奈
平成 栗原 はるみ
玄機 大印 宗介



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|
| 小光 | 中央 | 一葉 | 美二 | 光丘 | 竹華 | ひま | 若松 | 華雪 | 大田 | 御代 | めぐ | 光丘 | 秀雪 | 富貴 | 龍文 | 杉月 | 湊 | 中野 | 書之 | 宝春 | 新城 | 美菜 | 杉 | 硯 | 高風 | たけ | み月 | 李光 | この | 一繪 | 月 | 一葉 | みな | 美苑 |
| 大澤 | 白澤 | 浅井 | 水原 | 貝塚 | 縄野 | 荻久保 | 恩田 | 高日 | 大澤 | 山口 | 宮川 | 安藤 | 安藤 | 梅田 | 小松 | 櫻井 | 田村 | 外山 | 道端 | 長山 | 河野 | 関口 | 桑原 | 佐藤 | 大塚 | 北原 | 中野 | 早川 | 小林 | 坪井 | 小澤 | 茂木 | 長谷川 | 石原 |
| 美咲 | 洋一 | カレブ | 乃 | 莉歩 | 琥太 | 俊大 | 菜々子 | なな | 瑠菜 | 真穂 | よしの | 花凜 | 優 | 開成 | 結愛 | 華 | 琴海 | 敦博 | 成 | 成実 | 真歩 | 梓 | 惺來 | 優 | 凜佳 | 桜 | 由華 | 音瑠 | なごみ | 茉莉 | 優衣 | 理子 | 弘葉 | |

小四 大島 海織 け 雲 や 夕 雲 や	土 小四 川 又 又 主 け 雲 や 夕 雲 や	仙 小四 堀 吉 け 雲 や 夕 雲 や	小五 美 波 の 花 火 音 火	小五 智 仁 の 花 火 音 火	虹 友 小五 佐 木 結 菜 の 花 火 音 火
小四 紀 葵 け 雲 や 夕 雲 や	小四 結 奈 け 雲 や 夕 雲 や	小四 中 村 綾 太 け 雲 や 夕 雲 や	五 年 半 六 段 牛 丸 鈴 良 の 花 火 音 火	小五 野 田 さ 上 介 の 花 火 音 火	五 年 千 歩 の 花 火 音 火
小三 心 美 ん 糸 ぼ と ん 糸 ぼ と	四 年 上 條 柚 菜 け 雲 や 夕 雲 や	小四 土 屋 誠 け 雲 や 夕 雲 や	四 年 悠 花 け 雲 や 夕 雲 や	龍 文 遠 の 花 火 音 火	龍 文 長 谷 川 歌 音 の 花 火 音 火
小三 ゆ ず 介 ん 糸 ぼ と ん 糸 ぼ と	留 奈 け 雲 や 夕 雲 や	日 向 雪 音 け 雲 や 夕 雲 や	乃 花 け 雲 や 夕 雲 や	小五 比 呂 本 祐 衣 の 花 火 音 火	五 年 市 川 美 邑 の 花 火 音 火
小三 め い ん 糸 ぼ と ん 糸 ぼ と	小四 柚 厚 任 村 け 雲 や 夕 雲 や	四 年 公 井 希 羽 利 け 雲 や 夕 雲 や	省 坂 口 大 空 け 雲 や 夕 雲 や	小五 片 山 麻 の 花 火 音 火	小五 終 田 侑 人 の 花 火 音 火
大 三 小 ん 糸 ぼ と ん 糸 ぼ と	小四 日 花 里 け 雲 や 夕 雲 や	小四 小 間 紗 和 け 雲 や 夕 雲 や	四 年 銀 宮 茉 央 け 雲 や 夕 雲 や	小五 長 谷 川 留 果 の 花 火 音 火	小五 宝 田 来 睦 の 花 火 音 火

大 阪 光 丘 華 雪 房 風 大 原 遠 山 有 喜
 虹 友 高 峰 上 島 千 歩 佐 々 木 結 菜
 柏 心 市 川 美 邑 長 谷 川 敬 音
 有 虹 宝 田 侑 人 来 瞳
 綾 華 富 井 智 仁 野 田 さ 上 介
 青 雲 小 口 遠
 龍 文 皆 本 祐 衣
 秀 雪 片 山 廉
 名 東 長 谷 川 留 果
 蔵 永 戸 美 波
 華 雪 牛 丸 紗 良
 皓 花
 平 成 蟹 澤 悠 花
 玄 機 西 口 乃 々 花
 高 社 坂 口 大 空
 皓 花 鎌 宮 茉 央
 仙 台 菊 地 颯 杏
 照 澤 中 村 綾 太
 華 雪 土 屋 誠
 雅 守 永 日 向 雪
 書 之 金 井 春 珂
 練 馬 小 関 紗 和
 土 筆 川 又 愛 菜
 北 府 宇 都 欽 う な
 湊 上 條 柚 葉
 珠 紅 宮 川 留 奈
 虹 苑 樋 屋 佳 利
 光 丘 平 戸 日 花 里
 茅 野 大 島 海 織
 倭 三 上 紀 葵
 房 風 榎 本 心 美
 華 雪 千 葉 柚 香
 大 原 有 喜



霞墨	有穂	華雪	新潟	光丘	練馬	神奈	【小一】	和	花象	練馬	さわ	秀雪	光丘	有虹	霞墨	往郷	平成	珠悠	【小二】	好野	八潮	凜心	霞墨	書之	みな	晴美	硯	玄黙	山愛	芙二	湊	須坂	龍文	志摩	若松	秀雪	竹華
柳田	内尾	高日	田中	千葉	児玉	洪田	一翔	佐藤	奥井	藍原	児玉	岡崎	古谷	俣田	島田	高山	宮脇	中野	富井	木曾	泉	嶋田	菅生	新井	勝毛	三浦	壽山	熊谷	脇山	山田	高橋	西澤	近藤	小野	伊藤	奈良	
結仁	悠人	煌世	美尋	夕琳	すみれ	翔	一翔	光	謙介	京史	侑子	成吾	陽菜	麻希	知佳	祐聖	蒯遥	莉緒	理沙	彩葉	星河	千咲	開耶	翔太	いっせい	ひびき	ひびき	優月	美来	心花	宗也	浩太郎	宗也	宗也	彩愛	勇誠	

「昔、中國の客とソノ人が岩を虎に
と思つて矢を射たりつせよ、つてし
また何事も真劍を布かむ少しい
サン神龍 井野美砂」といふ

毛筆の力強い字は、心を平靜に
置き、筆はしっかりと握り、丹田に
力を込めて書きます。光、五中三
清水栄虎

夜空にかがやく北極星は、昔
から方角を知る目印として
役立ってきた。名東、五、四、
杉田海

夜空にかがやく北極星は、昔
から方角を知る目印として
役立ってきた。田、谷、麻、
沖野 絵麻

行列するはたらきありの
体の仕組みをウイルソンが
研究しました。山、下、結、愛、
山下結愛

青いうみの上を白
いかめがとんで
いました。青、石、い、お、月、
青石いお月

青いうみの上を白
いかめがとんで
いました。正、松、み、み、二、海、
正松みみ二海

昔、中國の客とソノ人が岩を虎に
と思つて矢を射たりつせよ、つてし
また何事も真劍を布かむ少しい
聖、津、中、美、明、と、い、ふ、い、

毛筆の力強い字は、心を平靜に
置き、筆はしっかりと握り、丹田に
力を込めて書きます。宇、土、中、三、
窪田晴那

夜空にかがやく北極星は、昔
から方角を知る目印として
役立ってきた。西、村、堂、
西村堂

行列するはたらきありの
体の仕組みをウイルソンが
研究しました。森、田、陽、人、
森田陽人

行列するはたらきありの
体の仕組みをウイルソンが
研究しました。平、お、く、田、り、ほ、
平おく田りほ

青いうみの上を白
いかめがとんで
いました。小、口、透、
小口透

青いうみの上を白
いかめがとんで
いました。小、口、透、
小口透

ピースピースと啼く小鳥達の声を
聞いたが、私は世界平和を願わ
ずにはいられない。五、種、一、級、
今、井、忠、美、

毛筆の力強い字は、心を平靜に
置き、筆はしっかりと握り、丹田に
力を込めて書きます。緒、花、中、一、六、
岩村兼

夜空にかがやく北極星は、昔
から方角を知る目印として
役立ってきた。大、竹、莉、緒、
大竹莉緒

行列するはたらきありの
体の仕組みをウイルソンが
研究しました。福、山、正、瑛、
福山正瑛

行列するはたらきありの
体の仕組みをウイルソンが
研究しました。中、央、五、四、
堀切莉乃

青いうみの上を白
いかめがとんで
いました。小、口、透、
小口透

青いうみの上を白
いかめがとんで
いました。中、せ、り、音、
中せり音

毛筆の力強い字は、心を平靜に
置き、筆はしっかりと握り、丹田に
力を込めて書きます。南、象、中、三、
寺井愛

毛筆の力強い字は、心を平靜に
置き、筆はしっかりと握り、丹田に
力を込めて書きます。古、谷、美、裕、
古谷美裕

夜空にかがやく北極星は、昔
から方角を知る目印として
役立ってきた。芦、留、筆、人、
芦留筆人

行列するはたらきありの
体の仕組みをウイルソンが
研究しました。松、久、温、太、
松久温太

〔硬筆〕

- 【一般】サン 井野 美砂
- 【中学】正桂 宮下 惠美
- 有象 寺井 栄花
- 光丘 清水 萌那
- 宇土 窪田 那
- 皓花 岩村 凛
- 【小五・六】たけ 古谷 美桜
- 名東 杉田 海
- この 西村 莉緒
- 石峯 大竹 菫
- 【小三・四】大阪 沖野 隼人
- 倭 森田 陽人
- 瑞祥 福山 正瑛
- みな 山下 結愛
- 平成 奥田 莉歩
- 中央 堀切 莉乃
- 【小一・二】華雪 石井 都月
- 龍文 小笠原 冬菜
- 正桂 富沢 貫裕
- 勝木 堀 ゆきは
- 練馬 中瀬 璃音

Table with 4 columns of names and characters. The names are arranged in a grid pattern, with each cell containing a character or a short name. The grid is 20 rows high and 40 columns wide.

皓花	長野	柏芳	聖	飯田	城山	船橋	大坂	富貴	中野	聖	産古	東根	小光	宮地	一絵	船橋	書雲	花雲	大阪	杉	練馬	水	信大	暁月	笠原	華雪	硯雪	静	静	麗墨	杉	碩雲	華雪	秀雪	華雪	照澤		
林愛友	濱中	西村	聖	飯田	城山	船橋	大坂	富貴	中野	聖	産古	東根	小光	宮地	一絵	船橋	書雲	花雲	大阪	杉	練馬	水	信大	暁月	笠原	華雪	硯雪	静	静	麗墨	杉	碩雲	華雪	秀雪	華雪	照澤		
文心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	玄心	
柳澤早	越谷風	吉原永	根本和	小林則	古本忠	浦原玲	三藤紫	櫻井硯	秋谷賢	小春華	多賀美	下垣谷	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄	山田栄		
大坂	富貴	宮地	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	
宗玉野	波里亮	都志理	岩山理	伊藤均	佐藤希	石井千	津田智	松田智	野崎美	中里美	赤澤み	清水弘	山田俊	佐々木	増原東	泉さら	高橋真	小池紫	今村久	岸崎	鎌倉師	宇留賀	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香	須藤香		
船橋	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三	準三		
中野	秀雪	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	横二	
古田	高柳	井藤	野澤	宇田川	谷川	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	北野	
社会	八潮	初	下原	安達	根子	妹尾	表原	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	林能	
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	
石峯	船橋	一路	珠	正	倚雲	備後	瀬戸	上尾	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	八潮	
梅崎哲	大野	鈴	岡本	今井	百瀬	近藤	古川	長角	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	
練馬	八潮	名	土	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝	
澤田	田	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	
船橋	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	須	
菊田	関	星	細	佐	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	
游墨	成城	西	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
美苑	八潮	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	杉	
乾聖	岩	小	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	菅	
池	岩	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	
竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹	竹

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

小光	井上和	長島優	好野	竹内清	金子千	長戸智	齋藤小	齋藤小	清水梅	白崎き	松倉源	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
優生	澤井麻	松尾允	加藤探	岸野澄	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
高社	飯島菜	福原弘	根本和	南花	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
光丘	須田明	佐藤明	根本和	南花	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
松戸	青山利	佐藤明	根本和	南花	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
高社	飯島菜	福原弘	根本和	南花	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
高社	飯島菜	福原弘	根本和	南花	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
高社	飯島菜	福原弘	根本和	南花	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
高社	飯島菜	福原弘	根本和	南花	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま
高社	飯島菜	福原弘	根本和	南花	井上典	齋木祐	小暮尊	津原博	隅香若	林万寿	横本奈	特1級	笠原	中田和	若松	城田優	若葉	小林ま

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with multiple columns containing names and numbers, organized into sections like '硬筆', '随筆', and '作文'. Each row lists names and associated numbers, likely representing a ranking or list of members.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

花象 高橋理 神奈 大場博 三	庄司玲 凛心 中川優 三	宮入彩 照澤 吉江ゆ 準初	園田恵 玄樸 大印千 特2	濱野も 若松 澤本さ 1中	さわ 小野夏 伊藤真 1中	愛心 小野夏 奥井謙 4上	松本奈 小澤羽 蒲池終 7上	静奈 谷野友 安原早 〇〇小林界	沼野山 平成 房野瑠 〇〇小野界	一絵 薄井ま 矢部心 特待	小一 〇〇小一 濱野そ 〇〇小野界	玄嶽 松原葉 増田利 〇〇小野界
三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中

花象 高橋理 神奈 大場博 三	庄司玲 凛心 中川優 三	宮入彩 照澤 吉江ゆ 準初	園田恵 玄樸 大印千 特2	濱野も 若松 澤本さ 1中	さわ 小野夏 伊藤真 1中	愛心 小野夏 奥井謙 4上	松本奈 小澤羽 蒲池終 7上	静奈 谷野友 安原早 〇〇小林界	沼野山 平成 房野瑠 〇〇小野界	一絵 薄井ま 矢部心 特待	小一 〇〇小一 濱野そ 〇〇小野界	玄嶽 松原葉 増田利 〇〇小野界
三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中

花象 高橋理 神奈 大場博 三	庄司玲 凛心 中川優 三	宮入彩 照澤 吉江ゆ 準初	園田恵 玄樸 大印千 特2	濱野も 若松 澤本さ 1中	さわ 小野夏 伊藤真 1中	愛心 小野夏 奥井謙 4上	松本奈 小澤羽 蒲池終 7上	静奈 谷野友 安原早 〇〇小林界	沼野山 平成 房野瑠 〇〇小野界	一絵 薄井ま 矢部心 特待	小一 〇〇小一 濱野そ 〇〇小野界	玄嶽 松原葉 増田利 〇〇小野界
三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中	三 中 中

愛心・上尾・朝日・飯田・飯山・二絵・一葉・伊奈・宇土・往郷・大泉・大田・大淀・花雲・華雪・神奈川・霞墨

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 20 rows of names and numbers. Columns represent different groups (e.g., 準一, 準二, 準三) and rows represent individuals. Includes group names like 花連会, 北府支部, 北山支部, etc.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Main table containing names and their corresponding grades/levels across multiple columns. Includes various characters like '準', '特', '初', '二', '三', '四', '五', '六', '七', '八', '九', '十' and names such as 稲垣里, 石塚里, 永島帆, etc.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with multiple columns and rows listing names and numbers, organized by branch (e.g., 大山崎, 柳澤笑, 紗梨, etc.).

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with 8 columns and 100+ rows of names and grades. Columns represent different groups or divisions. Rows list individuals with their names and corresponding grades (e.g., 準一, 準二, 準三, etc.).

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 100+ rows listing names and their corresponding grades/levels. Includes categories like '硬筆', '毛筆', '右文', '優生', '野', '李光', '龍文', '綾華', '凜心', 'りんりん', '和', '若竹', '若葉', '若松', '若宮', 'その他'.

注意 1. 作品には必ず支部名(学年) 段級位 氏名をお書き下さい。
2. 貼付するバーコード出品券の上段の出品課題の○印、段級位も忘れずに正しく書けているかご確認ください。
※上記にご注意いただき、正しい登録がされると誤りによりチェック等の作業がなくなります。ご協力下さい。

昇段級試験 師範昇格試験 要項 特待生試験

左記の要項にもとづき昇段級試験並びに師範昇格試験、特待生試験を行います。ふるって力作を御出品ください。

昇段級試験

出品規定

- 小・中学生
十一月号の毛筆規定
十一月号の硬筆規定
- 一般
十月号の漢字条幅規定
十一月号の隸書条幅規定
十一月号の楷書臨書規定
十月号の行書臨書規定
十一月号のかな規定
十一月号の硬筆規定

出品料

- 小 生 一 点 につき 五〇〇円
- 中 学 生 一 点 につき 五〇〇円
- 一 般 一 点 につき 一〇〇〇円

特待生試験

出品資格

- 小・中学生で現在準八段の者
- 小・中学生は昇段級試験と同じ

出品料

- 小 学 生 一 点 につき 五〇〇円
- 中 学 生 一 点 につき 五〇〇円

師範昇格試験

出品資格

準師範試験 一般部で準五段・五段の者

出品規定

師範試験 準師範の者

出品料

昇段級試験の一般部規定に同じ

☆準師範試験

四〇〇〇円

☆師範試験

五〇〇〇円

出品の手続き

- 1 支部及び個人宛に要項、出品目録、師範・準師範・特待生試験受験名簿、申請書を送ります。
 - 2 師範・準師範・特待生試験受験者は名簿に必要事項を記入し、作品にバーコード出品券を必ず貼付の上、共に提出すること。
 - 3 返信封筒は不要となりました。
 - 4 段級位の認定証は一部三〇〇円です。認定証の要のみ申請書に記入し、「要」の場合は出品料の欄に加算すること。
 - 5 (個人で認定証を申込み時は返信切手三二〇円を同封し、返信用封筒は不要)
 - 6 師範の認定証は二月号発表後に申し込む。
- 為替・振込にての送金は御遠慮下さい。
- 出品料が千円以下の場合も切手でも結構です。

締切日

十一月二十日(金) (厳守願います)

発表

出品者あて成績通知をもって発表にかえさせていただきます。師範試験及び特待生試験の合格者は二月号誌上に発表の予定。

出品先

〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六 上條方

書 象 会 藤 森 大 節 あ て

書象会便り

改組新第7回日展の出品手続き完了

令和二年度改組新第7回日展の最終選考会が、去る九月十三日(日)武蔵野公会堂において開催され、本年度の出品作品を決定し、約一四〇名の出品手続きを完了しました。十月末の結果発表が期待されます。

書展予告

☆杉並区民書道展

会 期 十月二日(金)～六日(火) (初日は午後一時から)

会 場 セシオン杉並

本会関係出品者 二十一名

☆松本小光卒書展

会 期 十月十三日(火)～十八日(日)

会 場 銀座大黒屋ギャラリー六階

(午前十一時～午後六時 最終日五時迄)

☆第45回記念泰山門書展 併催春季選抜学生書道展

会 期 十一月三日(火・祝)

会 場 笠原学園本部

主 催 笠原泰山先生

お知らせ

☆第49回日本の書展 東京展公募臨書出品要項

受付期間 九月十五日(火)～九月三十日(木)

○作品内容・寸法 臨書 半切(縦・横) 半切1/2横

○展 示 第49回「日本の書展」国立新美術館

前 期 二〇二一年六月十日(木)～十四日(月)

後 期 二〇二一年六月十六日(水)～二十日(日)

※審査結果は二〇二一年四月に通知されます。入選された会員または支部長先生は、本部までご連絡下さい。

発行人 (有) 書 象 会
代 表 上 條 節 夫

東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
郵便番号180-0001 電話〇四二(五三)九七四三
振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一
振替名義 (有) 書 象 会
印刷所 株式会社 リンクス

氏名